

消 防 年 報

平成22年版



鳥取県西部広域行政管理組合

消 防 局

(平成23年刊行)

は じ め に

この消防年報は、鳥取県西部広域行政圏の消防現勢並びに、平成22年における消防行政の執行状況を広く一般に紹介し、今後の消防行政の運営に資するため編さんしたものです。

なお、予算については会計年度を用い、その他の表についてはそれぞれに記載する年月日で表したものです。

平成23年9月

鳥取県西部広域行政管理組合消防局

目 次

鳥取県西部広域行政管理組合管内の概況	1
組合管内全図	2
管内常備消防の沿革	3
歴代の管理者・議長・消防(局)長	14
鳥取県西部広域行政管理組合消防局組織図	15
消防機関の出動状況	16
相互応援協定	17
事務分掌	18
消 防 職 員	
(1)職員配置状況	21
(2)職員在職年数	23
(3)職員年齢構成	24
(4)職員研修状況	25
(5)職員採用試験	26
消防予算の状況	
(1)平成23年度当初予算額の対前年度比較	27
(2)平成23年度当初予算額の財源内訳	28
(3)平成22年度決算額	28
消 防 施 設	
(1)消防庁舎の位置・構造	29
(2)消防吏員待機宿舎概要	29
(3)消防車両等配置数	30
(4)消防車両概況	31
別図Ⅲ-1 事故種別救助出動状況	
(5-1)救急隊配置場所	33
(5-2)高規格救急車積載一覧	34
(5-3)救助隊配置場所	35
(5-4)高度救助用資機材一覧	35
(5-5)救助工作車(Ⅲ型)積載一覧	36
(6)通信施設	37
予 防	
(1)防火対象物の現状	40
(2)各種届出事務処理の状況	41
(3)予防査察件数	41
(4)防火指導等状況	41
(5)建築同意の用途別事務処理状況	42
(6)危険物製造所等の現況	43
(7)危険物製造所等の事務処理件数	43
(8)火薬類取締法関係	44
(9)液化石油ガス法関係	44
火 災 概 況	
火災概況	45
別図Ⅰ-1 火災件数の推移	46
別図Ⅰ-2 火災種別出火ごとの構成比率	46
別図Ⅰ-3 月別の火災件数	47
別図Ⅰ-4 市町村別火災件数の構成比率	47
別図Ⅰ-5 経過別死者発生状況	48
別図Ⅰ-6 経過別負傷者発生状況	48
別表Ⅰ-1 平成22年の火災の概況	49
別表Ⅰ-2 月別火災発生状況	50

別表Ⅰ－3	市町村別火災状況	51
別表Ⅰ－4	出火原因別火災発生概況	52
別表Ⅰ－5	過去5年間の市町村別火災件数	53
別表Ⅰ－6	過去10年間の火災発生状況	54
救急・救助概況		
救急概況		55
別図Ⅱ－1	事故種別救急出動状況	56
別図Ⅱ－2	事故種別救急搬送状況	56
別図Ⅱ－3	過去5年間の救急推移	57
別図Ⅱ－4	市町村別救急活動状況	57
別図Ⅱ－5	傷病程度別搬送状況	58
別図Ⅱ－6	年齢別搬送状況	58
別図Ⅱ－7	署所別救急活動状況	59
別図Ⅱ－8	月別救急活動状況	59
別図Ⅱ－9	現場到着所要時間	60
別図Ⅱ－10	収容所要時間	60
(1)	平成23年度当初予算額の対前年度比較	61
(2)	平成23年度当初予算額の財源内訳	61
(3)	平成22年度決算額	61
別図Ⅱ－14	過去5年間の救急講習件数推移	62
別図Ⅱ－15	過去5年間の救急講習人員推移	62
別図Ⅱ－16	応急手当指導員・普及員の養成	62
別表Ⅱ－1	過去5年間の市町村別救急件数	63
救助概況		64
別図Ⅲ－1	事故種別救助出動状況	65
別図Ⅲ－2	事故種別救助活動状況	65
別図Ⅲ－3	事故種別救助人員状況	66
別図Ⅲ－4	管轄別救助活動状況	66
別図Ⅲ－5	市町村別救助活動状況	67
別図Ⅲ－6	月別救助活動状況	67
119番着信概況		
119番着信概況		68
別表Ⅲ－1	119番着信件数の推移	69
別表Ⅲ－2	月別119番着信状況	69
別表Ⅲ－3	電話種別による119番着信件数の推移	70
別表Ⅲ－4	電話種別毎の通報状況	70
別表Ⅲ－5	携帯電話からの着信状況	70
別表Ⅲ－6	携帯電話の消防機関別転送状況	71
別図Ⅳ－1	通報内容別着信状況	71
別図Ⅳ－2	月別着信状況	72
別図Ⅳ－3	電話種別毎の着信比率	72
別図Ⅳ－4	時間帯別着信件数の推移	73
別図Ⅳ－5	電話種別による通報状況	73
消防団・水利・大火災記録		
消防団の人員と装備		74
管内水利状況		75
大火災記録		76
関係団体		
〔米子市危険物保安協会〕		78
別表Ⅰ－1	平成22年の火災の概況	80
〔境港市消防保安協会〕		81

鳥取県西部広域行政管理組合管内の概況

位置と地勢

当組合は、鳥取県の西部に位置し、中海を抱く米子市・境港市を中心として西伯郡・日野郡の2市2郡（9市町村）で構成されている。

米子市は、この地域における行政・交通・教育・文化など多面的な中枢機能をもつ山陰有数の商業都市であり、それと隣接する境港市は、日本海に面する重要港湾境港により海外貿易の門戸として、また沖合漁業の基地として知られ、弓浜半島の先端部に位置している。

米子市の南部、法勝寺川の流域平野部に南部町（西伯郡）があり、西域は島根県境と接しており、また名峰「大山」を臨む東部日本海沿岸部には日吉津村・大山町（西伯郡）があり、平坦部には肥沃な農地が拓け、沿岸漁業も盛んである。

一級河川日野川の流域、遠く岡山・広島県境に至る中国山地に日南・日野・江府の各町（日野郡）が位置し、日野路への進入路には米子市と隣接して伯耆町（西伯郡）がある。

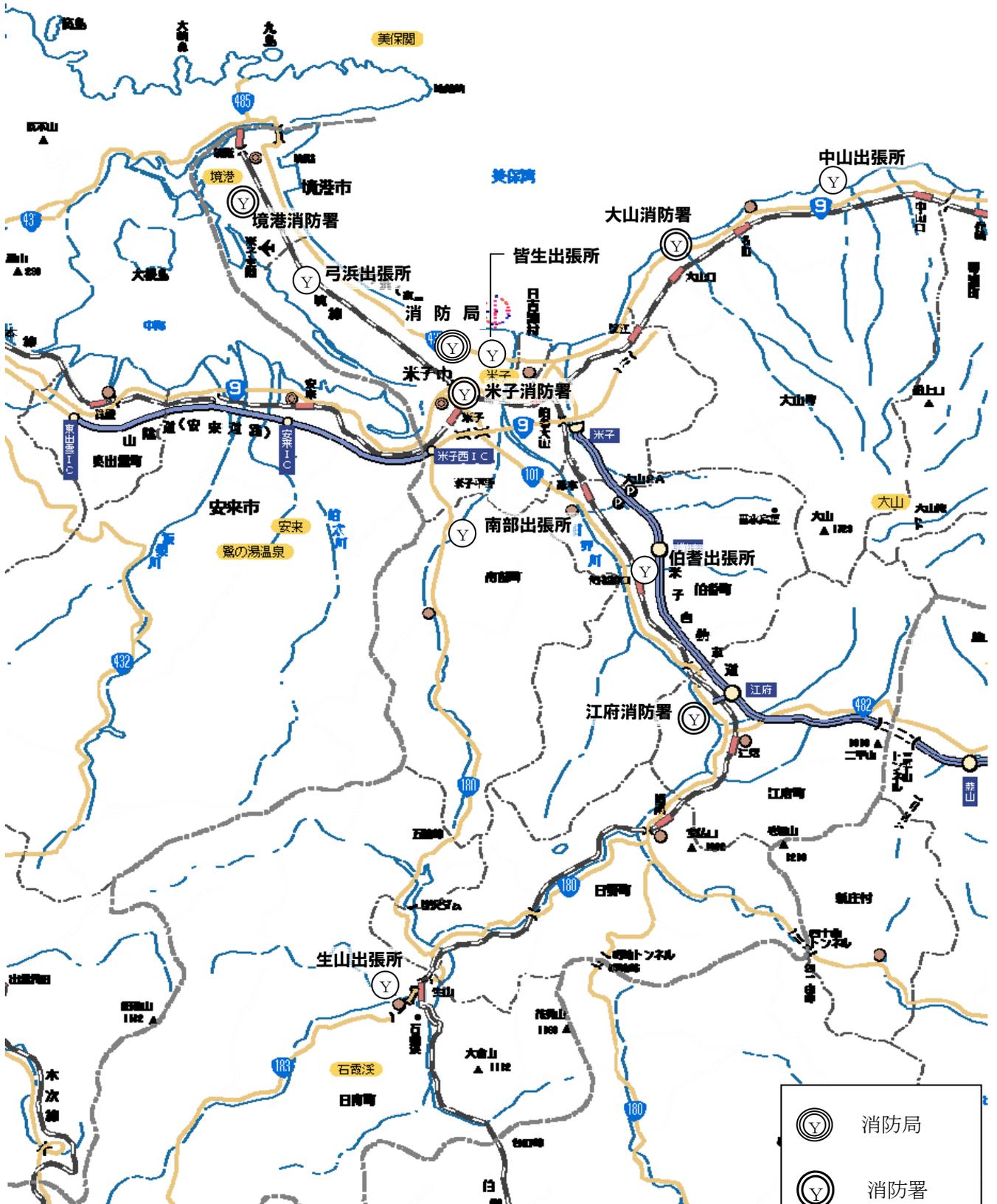
人口・世帯数・面積

平成23年4月1日現在

構成市町村	人口(人)	世帯数(世帯)	面積(km ²)
米子市	147,793	57,961	132
境港市	35,004	13,238	29
日吉津村	3,312	1,080	4
大山町	17,387	5,449	189
南部町	11,506	3,616	114
伯耆町	11,592	3,697	139
日南町	5,245	2,096	341
日野町	3,673	1,387	134
江府町	3,266	1,066	125
合計	238,778	89,590	1,207

(鳥取県市町村別推計人口による)

組合管内全図



管内常備消防の沿革

1. 米子市の消防

- 明治 26 年 3 月 米子町消防条例を制定し、定員21人、消防ポンプ2台(機種不明)をもって消防組を編成した。
- 昭和 2 年 4 月 市制実施
- 昭和 6 年 4 月 消防ポンプ自動車1台購入配置、森田式タービンポンプ4気筒A型フォード製
- 昭和 9 年 米子市公設消防組設置、消防ポンプ自動車1台、消防夫20人の常備制をとり、詰所を市役所内においた。
- 昭和 14 年 4 月 警防団令の施行によって、米子市警防団を結成し、消防組は警防団の消防部となった。
- 昭和 18 年 4 月 消防部の詰所を富士見町2丁目126番地に移転した。
- 昭和 22 年 4 月 消防団令が公布されて、警防団は解散し、新しく米子市消防団が結成されたが、消防部は市の常備消防部となった。
- 昭和 23 年 9 月 消防組織法の施行により米子市消防本部及び米子市消防署が設置され、消防職員24人、消防ポンプ自動車3台で業務開始した。初代吉村泰之消防長就任(収入役兼務)
- 昭和 24 年 7 月 小型消防ポンプ自動車1台購入配置
- 昭和 24 年 9 月 小型消防ポンプ自動車1台購入配置
- 昭和 25 年 10 月 消防ポンプ自動車1台購入配置
- 昭和 26 年 4 月 消防職員43人となる。(内2人は本庁兼務)
- 昭和 28 年 4 月 消防職員46人となる。(")
- 昭和 30 年 11 月 消防庁舎を増改築した。木造瓦葺2階建延面積464. 477㎡、消防職員定数54人となる。
- 昭和 30 年 11 月 消防ポンプ自動車1台を購入配置
- 昭和 31 年 5 月 2代船越照郷消防長就任
- 昭和 31 年 7 月 消防本部係制実施(庶務、予防第一、予防第二、消防、機械の5係)
- 昭和 32 年 11 月 消防ポンプ自動車1台購入配置
- 昭和 33 年 4 月 指揮車(ジープ型)1台購入配置
- 昭和 34 年 4 月 日本損害保険協会から消防ポンプ自動車1台の寄贈を受けた。(損保号)
- 昭和 37 年 11 月 消防ポンプ自動車1台を購入配置(2号車)
- 昭和 38 年 7 月 3代戸田勇消防長就任
- 昭和 40 年 4 月 4代吉村純一郎消防長就任
- 昭和 40 年 9 月 5代松田宏消防長就任
- 昭和 40 年 9 月 広報車1台購入配置(日本消防協会配車)
- 昭和 41 年 9 月 消防ポンプ自動車1台購入配置(1号車)
- 昭和 42 年 6 月 消防本部に課制実施(警防課、総務課)

昭和42年7月 消防職員定員65人となる。

昭和42年12月 救急自動車1台、化学車1台購入配置

昭和42年12月 富士見地区区画整理事業実施により富士見町1丁目103番地1に新庁舎を新築移転した。鉄筋コンクリート造3階建延総面積13,207㎡

昭和43年2月 救急業務開始

昭和43年3月 水そう付消防ポンプ自動車1台購入配置(速消車)

昭和43年11月 消防ポンプ自動車1台購入配置(6号車)

昭和44年3月 屈折梯子付消防ポンプ自動車購入配置(スノーケル車)

昭和44年4月 6代植田実消防長就任

昭和45年3月 消防ポンプ自動車1台購入配置(5号車)

昭和45年11月 日本損害保険協会から水そう付消防ポンプ自動車1台の寄贈を受けた。(火災保険号)

昭和47年4月 消防職員の定数70人となる。

昭和47年5月 指揮車を購入し更新配置した。(指揮1号)

昭和48年4月 消防職員の定数72人となる。

昭和48年12月 救急自動車1台を購入配置した。(救急2号)

昭和49年1月 小型トラック1台を購入配置した。(作業車)

昭和49年6月 広報車1台購入配置した。(広報2号)

昭和50年3月 消防ポンプ自動車1台購入配置

昭和50年4月 西伯郡7町村(西伯、岸本、会見、淀江、大山、名和町及び日吉津村)から救急業務を受託して業務開始、消防職員定数77人となる。

昭和50年7月 東京海上火災保険株式会社から広報車1台の寄贈を受けた。(広報1号)

昭和50年8月 鳥取県共済農業協同組合から救急自動車1台の寄贈を受けた。(救急3号)

昭和50年9月 日本消防協会から救急自動車1台の寄贈を受けた。(救急1号)

昭和51年1月 7代名和義則消防長就任

昭和51年4月 皆生1661番地に皆生出張所を開設し、分遣隊による業務開始。鉄筋コンクリート造平屋建延面積391.957㎡、消防職員定数79人となる。

2. 境港市の消防

昭和31年5月 境港市消防本部設置(市制施行に伴う)
西村清美団長 団員定数150名(6ヶ分団)
消防ポンプ自動車 6台

昭和31年5月 境港市消防団常備部開設
常備部長 西村清美団長 中嶋登美夫主任
常備部定員14名 消防ポンプ自動車A2級1台(S28.2購入)
消防専用中短波無線電話 基地局1、移動局2
庁舎 木造瓦葺2階建(延106.38㎡)
(第1分団(境)の消防車庫を改築し、待機室、仮眠室増設)

	所在地、境港市上道町1, 703番地
昭和 31 年 10 月	常備部定員18名となり、4名増員
昭和 33 年 9 月	全市内に上水道消火栓が敷設させる。初年度92ヶ所
昭和 34 年 7 月	境港市消防本部・消防署設置 林 義人消防長（署長兼務） 署員定数19名
昭和 36 年 5 月	消防庁舎新築(延353. 17㎡) 所在地 境港市上道町1, 600番地
昭和 36 年 11 月	消防署員10名増員 署員定数 29名
昭和 37 年 7 月	消防ポンプ自動車(A2級)1台新設(損害保険協会より寄贈を受ける)
昭和 39 年 4 月	救急業務開始。救急車(ジープ型)1台配置(日赤鳥取支部より貸与)
昭和 40 年 3 月	救急車(セドリック)更新(日赤貸与)
昭和 42 年 10 月	2代梶野利雄消防長（市総務課長兼務）
昭和 42 年 12 月	3代景山善次郎消防長（市収入役兼務） 化学消防ポンプ自動車(1型)1台新設 境港市消防保安協会より購入費一部(100万円)採納、購入額4, 345千円
昭和 43 年 3 月	消防専用超短波無線電話設置(中短波を更新)5基(固定局1、基地局4)
昭和 43 年 4 月	消防署組織改編。庶務、警防、予防3係設置
昭和 43 年 9 月	4代中嶋登美夫消防長（専任、署長兼務）
昭和 44 年 12 月	消防ポンプ自動車(A1級)1台新設。購入額2, 386千円
昭和 45 年 1 月	救急車(ニッサンB型)1台新設(消防庁より寄贈)
昭和 45 年 4 月	水そう付消防ポンプ自動車(1型、A1級)1台新設。購入額3, 180千円
昭和 46 年 5 月	広報連絡車(三菱ギャラン)1台新設(日本消防協会より寄贈)
昭和 46 年 12 月	消防専用超短波無線電話(移動局)2基増設
昭和 48 年 1 月	消防ポンプ自動車(A2級)1台増設。購入額2, 705千円
昭和 48 年 3 月	消防専用超短波無線電話、周波数改正により更新(周波数152. 08MC) 基地局1基、移動局2基
昭和 49 年 3 月	消防専用超短波無線電話、移動局3基更新(周波数改正)
昭和 50 年 4 月	消防本部組織改編、課制施行。消防課、庶務係、警防係、予防係、1課3係
昭和 50 年 9 月	救急車(2B型)1台増設。(日本消防協会より寄贈)
昭和 50 年 9 月	救急車(セドリック)1台廃棄。(日赤鳥取支部より貸与分)

3. 鳥取県西部広域行政管理組合の消防

昭和 51 年 5 月	“鳥取県西部広域消防発足” 鳥取県西部地域における常備消防体制の確立をはかるため、鳥取県西部広域行政管理組合(米子市、境港市、西伯町、会見町、岸本町、日吉津村、淀江町、大山町、名和町、中山町、日南町、日野町、江府町及び溝口町の2市12町村で構成)においては、昭和51年4月13日政令指定を受け、組合において消防業務を処理することになり、昭和51年5月1日組合消防本部、米子消防署、境港消防署を開庁
-------------	---

して業務を開始し、全面業務開始の昭和51年10月1日に向け、庁舎の建設、人員、器材の整備充足を図ることになった。

発足時の消防勢力は、消防職員数112人、消防ポンプ自動車8台、水そう付ポンプ自動車3台、化学消防自動車2台、屈折はしご付消防ポンプ自動車1台、救急自動車5台、指揮車1台、査察広報車3台、作業車1台

火災出場は、米子市、境港市の区域とし、救急出場は、米子市、境港市及び西伯郡の区域とする。

初代名和義則消防長就任

- 昭和 51 年 6 月 2 日 住友生命相互会社から救急自動車(無線機付)1台の寄贈を受けた。
- 昭和 51 年 7 月 1 日 消防職員31人を採用した。
- 昭和 51 年 7 月 16 日 広報車1台を購入した。(日本消防協会配車)
- 昭和 51 年 8 月 1 日 松江地区消防組合及び安来市能義郡消防組合との間に中海消防相互応援協定を締結した。
- 昭和 51 年 9 月 25 日 消防ポンプ自動車2台を購入した。(江府、大山出張所配置)
- 昭和 51 年 9 月 30 日 広報車1台を購入した。
- 昭和 51 年 10 月 1 日 米子消防署大山出張所及び江府出張所を開設し、管内全域において業務運用開始。
- 昭和 51 年 10 月 2 日 救急指令装置完成
- 昭和 51 年 11 月 13 日 40m級梯子付消防自動車を購入し、米子消防署に配備
- 昭和 51 年 11 月 15 日 日本損害保険協会から救急自動車1台の寄贈を受け、大山出張所に配置
- 昭和 52 年 2 月 22 日 消防ポンプ自動車4台を購入した。(西伯、溝口、生山、中山出張所配置)
- 昭和 52 年 3 月 14 日 消防ポンプ自動車1台を購入した。(弓浜出張所配置)
- 昭和 52 年 3 月 29 日 古峠山無線中継局が完成した。
- 昭和 52 年 4 月 1 日 消防職員の定数208人となる。
消防職員67人を採用し、彦名小学校跡において彦名消防研修所を開設して初任研修を開始した。
- 昭和 52 年 4 月 26 日 広報車1台を購入した。(中山出張所配置)
- 昭和 52 年 5 月 1 日 退職職員の補充として消防職員4人を採用した。
- 昭和 52 年 5 月 17 日 指揮車1台を購入し、米子消防署に配置
- 昭和 52 年 6 月 30 日 彦名消防研修所の研修を修了し、閉所した。
- 昭和 52 年 7 月 1 日 米子消防署西伯出張所、同溝口出張所、同生山出張所、同中山出張所の庁舎が完成し、それぞれ業務を開始した。
境港市小篠津町668番地の仮庁舎で、境港消防署弓浜出張所を開設し、業務を開始した。
- 昭和 52 年 9 月 17 日 日本消防協会から救急自動車1台の寄贈を受け、米子消防署に配置した。
- 昭和 52 年 10 月 4 日 鳥取県共済生活協同組合から広報車1台の寄贈を受け、米子消防署に配置した。
- 昭和 52 年 11 月 1 日 境港消防署弓浜出張所庁舎の工事が完成し、米子市大篠津町2, 913番地1の新庁舎において業務を開始し、仮庁舎を閉所した。
- 昭和 52 年 12 月 9 日 消防ポンプ自動車(CD-I)7台を購入し、江府、大山、西伯、溝口、生山、中山、弓浜の各出張所に配置した。

昭和 53 年 2 月 6 日	株式会社菊屋から救急自動車1台の寄贈を受け、米子消防署に配置した。
昭和 53 年 3 月 31 日	中部広域行政管理組合との間に西部、中部地区消防相互応援協定を締結した。
昭和 53 年 5 月 1 日	退職職員の補充として消防職員2人を採用した。
昭和 53 年 5 月 30 日	日本損害保険協会から水そう付消防ポンプ自動車1台の寄贈を受け、米子消防署に配置した。
昭和 53 年 6 月 1 日	退職職員の補充として、消防職員1人を採用した。
昭和 53 年 6 月 9 日	指揮広報車2台を購入し、西伯出張所及び溝口出張所に配置した。
昭和 53 年 11 月 27 日	消防ポンプ自動車(CD-I)2台を購入し、米子消防署及び皆生出張所に配置した。
昭和 53 年 11 月 28 日	日本損害保険協会から化学消防ポンプ自動車1台の寄贈を受け、境港消防署に配置した。
昭和 54 年 2 月 20 日	救助工作車1台を購入し、米子消防署に配置した。
昭和 54 年 4 月 1 日	消防職員の定数220人となる。 消防職員12人を採用した。
昭和 54 年 6 月 5 日	指令広報車1台を購入し、境港消防署弓浜出張所に配置した。
昭和 54 年 6 月 11 日	指揮車1台を購入し、米子消防署に配置した。
昭和 54 年 10 月 1 日	本部総務課に教養係を設け、本部予防課指導係を廃して危険物係、建築係とし、境港消防署に機械係を設けた。
昭和 54 年 10 月 13 日	境港美保ライオンズクラブから救急車1台の寄贈を受け、境港消防署に配置した。
昭和 54 年 10 月 17 日	水そう付消防ポンプ自動車1台を購入し、米子消防署に配置した。
昭和 54 年 10 月 27 日	消防ポンプ自動車(BD-I型)1台を購入し、境港消防署に配置した。
昭和 54 年 11 月 1 日	山陰酸素工業株式会社から広報車1台の寄贈を受け米子消防署に配置した。
昭和 54 年 12 月 1 日	指令広報車1台を購入し、境港消防署に配置した。
昭和 55 年 3 月 26 日	合資会社キョートスポーツから救急車1台の寄贈を受け、米子消防署に配置した。
昭和 55 年 4 月 1 日	消防職員の定数232人となる。 消防職員14人を採用
昭和 55 年 7 月 1 日	中山出張所及び生山出張所救急業務を開始
昭和 55 年 8 月 27 日	日本消防協会から救急車1台の寄贈を受け、中山出張所に配置
昭和 55 年 8 月 29 日	日本消防協会から司令広報車1台の寄贈を受け、米子消防署に配置
昭和 55 年 10 月 29 日	中山地区前進基地局開局(消防無線呼出名称西部消防中山)
昭和 55 年 11 月 7 日	消防ポンプ自動車(BD-1型)1台を購入し、米子消防署に配置
昭和 55 年 11 月 25 日	水そう付消防ポンプ自動車1台を購入し、境港消防署に配置
昭和 55 年 12 月 5 日	鳥取県消防設備保安協会より原動機付自転車2台及び和文タイプライター1台の寄贈を受け、米子消防署に配置
昭和 55 年 12 月 26 日	化学消防自動車1台を購入し、米子消防署に配置
昭和 56 年 1 月 20 日	救急車(3B型)1台を購入し、米子消防署に配置
昭和 56 年 4 月 1 日	消防職員の定数242人 消防職員14人採用
昭和 56 年 7 月 24 日	空気呼吸器充填用高圧コンプレッサーを皆生出張所に配備

昭和 56 年 9 月 30 日	日本消防協会から小型工作車1台の寄贈を受け、境港消防署に配置
昭和 56 年 11 月 30 日	水槽付消防ポンプ自動車1台を購入し、皆生出張所に配置
昭和 57 年 4 月 1 日	消防職員の定数246人 消防職員9人採用 消防本部の機構の一部改正(1本部4署、6出張所) 大山消防署、江府消防署開設(米子消防署大山、江府出張所をそれぞれ消防署に昇格) 第2代仲田末男消防長就任
昭和 57 年 5 月 31 日	指揮車1台更新(米子消防署)
昭和 57 年 6 月 1 日	防火基準適合表示制度(「表示マーク」交付)実施
昭和 57 年 7 月 16 日	小型動力ポンプB2級2台を購入し米子、大山消防署に配置
昭和 57 年 11 月 16 日	消防ポンプ自動車(CD-Ⅱ型)1台更新(米子消防署)
昭和 58 年 3 月 31 日	中山地区救急波前進基地局新設
昭和 58 年 4 月 1 日	鳥取県消防学校開校 教官として2名の職員を派遣した。
昭和 58 年 8 月 31 日	日本消防協会から救急自動車(2B型)1台の寄贈を受け境港消防署に配置
昭和 59 年 2 月 24 日	小型動力ポンプB2級2台を購入し西伯、中山出張所に配置
昭和 59 年 3 月 9 日	日本損害保険協会から救急自動車(2B型)1台の寄贈を受け大山消防署 中山出張所に配置
昭和 59 年 7 月 1 日	第3代西田英二消防長就任
昭和 59 年 7 月 20 日	消防本部庁舎に冷房設備を取付けた。
昭和 59 年 12 月 25 日	無線施設空中線塔の改修工事を行なった。
昭和 60 年 3 月 10 日	境港消防署庁舎に冷暖房設備を取付けた。
昭和 60 年 3 月 20 日	大山消防署中山出張所移転新築落成。中山町松河原弓ノ木880 (起工 昭和59年8月7日)
昭和 60 年 8 月 15 日	境港消防署第2消防車庫新築落成 (起工 昭和60年5月20日)
昭和 60 年 8 月 21 日	日本消防協会から救急自動車(2B型)1台の寄贈を受け米子消防署に配置
昭和 61 年 5 月 22 日	指令車1台を購入し、消防本部に配置
昭和 61 年 9 月 27 日	山陰酸素工業株式会社から連絡車1台の寄贈を受け、消防本部に配置
昭和 61 年 11 月 25 日	山之内製薬株式会社より救急車1台の寄贈を受け、大山消防署に配置
昭和 62 年 7 月 25 日	指揮車1台を購入し、消防本部に配置
昭和 62 年 8 月 19 日	江府消防署及び生山出張所の冷暖房設備改修工事を行なった。
昭和 62 年 9 月 3 日	日本消防協会より電源照明車1台の寄贈を受け、皆生出張所に配置
昭和 63 年 3 月 23 日	日本損害保険協会より救急車1台の寄贈を受け、江府消防署に配置
昭和 63 年 4 月 1 日	退職職員の補充として、消防職員3人を採用した。定数246名
昭和 63 年 6 月 29 日	大山消防署の冷暖房設備の改修工事を行った。
昭和 63 年 7 月 4 日	広報車1台更新(皆生出張所)
昭和 63 年 8 月 2 日	日本消防協会から救急車(2B型)1台の寄贈を受け皆生出張所に配置
昭和 63 年 9 月 1 日	日本損害保険協会より消防ポンプ自動車(BD-Ⅰ型)1台の寄贈を受け米子 消防署に配置
昭和 63 年 11 月 15 日	消防ポンプ自動車[(CD-Ⅰ型)電動ホースカー付]1台を購入

平成元年2月25日 消防ポンプ自動車(CD-I型)1台更新(境港消防署)

平成元年3月30日 消防本部の受水槽設備の改修及び米子消防署の車庫排気ダクト設備の工事を行った。

平成元年4月1日 第4代岩佐弘志消防長就任
消防職員定数253名
消防職員11名採用

平成元年5月22日 広報車2台更新(江府、大山消防署配置)

平成元年9月25日 超短波無線電話装置の設置

平成元年10月1日 溝口出張所に救急隊設置

平成元年10月25日 溝口出張所庁舎の増築、改修工事

平成元年10月27日 15m級梯子付消防自動車1台を購入、皆生出張所に配置

平成元年10月30日 救助用資機材(ホルマトロ)一式を購入、米子消防署に配置

平成元年11月2日 作業車1台更新(米子消防署)

平成元年12月25日 溝口出張所に救急自動車(2B型4WD)1台配置

平成2年4月1日 消防職員定数258名
消防職員7名採用

平成2年4月1日 米子消防署皆生出張所に特別救助隊を設置し、業務を開始した。

平成2年6月23日 広報車3台を購入、皆生、中山、生山出張所に配置

平成2年7月31日 梯子車分解整備、西伯出張所ホース乾燥塔補強

平成2年8月21日 (有)日本消防協会から携帯無線機10台、拡声器2台を寄贈

平成2年8月21日 (有)日本消防協会から指令広報車1台寄贈、境港消防署に配置

平成2年9月6日 救急車(2B型4WD)を購入、生山出張所に配置

平成2年9月18日 日本防火協会から防火広報車1台寄贈、消防本部に配置

平成2年11月21日 生山出張所改装工事

平成2年11月30日 超短波無線電話装置消防波10W2台、救急波10W3台購入

平成2年12月14日 消防ポンプ自動車2台購入、大山、江府消防署に配置

平成2年12月21日 消防本部防水及び外壁改装工事

平成3年1月21日 危険物第4類試験装置一式購入

平成3年2月6日 安田生命保険相互会社から救急自動車(日産2B型)1台寄贈、境港消防署に配置

平成3年3月20日 江府消防署敷地拡幅造成工事

平成3年3月25日 米子消防署仮眠室空調機取替修繕

平成3年3月27日 油圧切断機1台購入

平成3年4月1日 消防職員定数262名
消防職員12名採用

平成3年4月25日 日本損害保険協会から化学消防ポンプ自動車1台寄贈、境港消防署に配置

平成3年7月12日 査察用軽自動車2台購入
米子消防署、溝口出張所に配置

平成3年8月20日 西伯出張所冷暖房改修工事

平成3年9月5日 (有)日本消防協会から救急車1台寄贈、米子消防署に配置

平成3年10月1日 大山消防署敷地拡幅造成工事

平成3年10月22日 消防本部新庁舎建設用地取得

平成 3 年 11 月 27 日 超短波無線電話装置購入
消防波10W2台、救急波1台

平成 4 年 1 月 10 日 消防ポンプ自動車2台購入、中山、生山出張所に配置

平成 4 年 1 月 11 日 消防本部庁舎新築工事着工

平成 4 年 3 月 2 日 空気呼吸器5基、軽量ボンベ9本購入

平成 4 年 5 月 4 日 救急救命士誕生

平成 4 年 7 月 11 日 消防本部主訓練塔新築工事着工
消防本部緊急通信指令施設設置工事着工
消防無線設備改修工事着工
(消防本部・古峠山中継所・日南前進基地・中山前進基地)

平成 4 年 9 月 16 日 (財)日本消防協会から防火広報車寄贈、消防本部配置

平成 4 年 12 月 21 日 高規格救急車1台購入、米子消防署配置
啓発広報車1台購入、消防本部配置

平成 5 年 1 月 22 日 米子消防署救急救命隊発足・業務開始

平成 5 年 2 月 28 日 消防本部庁舎新築工事完成

平成 5 年 3 月 20 日 消防本部主訓練塔新築工事完成

平成 5 年 3 月 26 日 消防本部緊急通信指令施設設置工事完成
消防無線設備改修工事完成
(消防本部・古峠山中継所・日南前進基地・中山前進基地)

平成 5 年 4 月 1 日 消防本部移転、名称も消防本部から消防局に改名
同時に、消防局に指令課を新設
消防職員12名採用

平成 5 年 5 月 24 日 査察用軽自動車2台購入
中山、生山出張所に配置

平成 5 年 6 月 3 日 広報車2台更新(西伯、溝口出張所)

平成 5 年 8 月 30 日 (財)日本消防協会から防火広報車寄贈、消防局に配置

平成 5 年 10 月 1 日 西伯出張所に救急隊設置

平成 5 年 11 月 15 日 西伯出張所の増築・改修工事完成

平成 5 年 1 月 26 日 消防ポンプ自動車2台購入、皆生、西伯出張所に配置

平成 6 年 2 月 26 日 山之内製菓株式会社より救急車1台寄贈、中山出張所に配置

平成 6 年 4 月 1 日 消防職員定員284名
消防職員11名採用

平成 6 年 5 月 10 日 査察用軽自動車2台購入(皆生出張所・西伯出張所に配置)

平成 6 年 5 月 25 日 広報車2台更新(消防局・弓浜出張所に配置)

平成 6 年 9 月 29 日 弓浜出張所庁舎の増築・改修・車庫の新築工事完成

平成 6 年 10 月 1 日 弓浜出張所に救急隊配備

平成 6 年 10 月 13 日 大山消防署救急車の更新

平成 7 年 1 月 17 日 阪神・淡路大震災、救助・救急隊災害派遣(1次～4次)

平成 7 年 2 月 10 日 溝口出張所1号車の更新

平成 7 年 3 月 27 日 (財)日本損害保険協会から高規格救急車寄贈、境港消防署に配置
(弓浜出張所1号車更新)

平成 7 年 4 月 1 日 第5代石上洋二消防局長就任
消防職員3名採用

平成 7 年 4 月 3 日 境港消防署、救急救命隊発足・業務開始

平成 7 年 12 月 23 日 境港消防署、新庁舎完成

平成 8 年 1 月 22 日 消防ポンプ自動車3台購入(米子消防署・大山消防署・江府消防署
に配置)

平成 8 年 2 月 26 日 米子市から連絡車寄贈、消防局に配置

平成 8 年 3 月 26 日 消防ポンプ自動車1台購入、生山出張所に配置

平成 8 年 3 月 28 日 救助工作車(Ⅲ型)1台購入

平成 8 年 4 月 1 日 消防職員定員287名

平成 8 年 4 月 25 日 救助工作車(Ⅲ型)皆生出張所に配置

平成 8 年 5 月 1 日 西部広域消防発足20周年記念式典開催

平成 8 年 12 月 19 日 25m級梯子車1台購入、境港消防署に配置

平成 8 年 12 月 25 日 査察用軽自動車1台購入、弓浜出張所に配置

平成 9 年 1 月 31 日 消防ポンプ自動車2台購入(西伯出張所・溝口出張所に配置)

平成 9 年 4 月 1 日 消防職員5名採用

平成 9 年 8 月 20 日 日本宝くじ協会から消火通報指導車寄贈、消防局に配置

平成 9 年 9 月 16 日 高規格救急車1台購入、大山消防署に配置

平成 9 年 10 月 1 日 大山消防署、救急救命隊業務開始

平成 9 年 11 月 7 日 タンク車及び消防ポンプ自動車各1台購入、弓浜出張所・中山出張
所に配置

平成 9 年 11 月 25 日 皆生出張所庁舎の増築・改修工事完成

平成 9 年 12 月 25 日 資機材搬送車1台購入、米子消防署に配置

平成 10 年 4 月 1 日 消防職員1名採用

平成 10 年 7 月 1 日 境港消防署に水難救助隊を設置し、業務を開始した。

平成 10 年 7 月 6 日 鳥取県消防防災航空隊の運用を開始した。 3名の職員を派遣

平成 10 年 11 月 30 日 江府消防署庁舎の増築・改修工事完成

平成 11 年 1 月 14 日 高規格救急車1台購入、江府消防署に配置

平成 11 年 1 月 25 日 消防ポンプ自動車2台購入(米子消防署・境港消防署に配置)

平成 11 年 1 月 25 日 タンク車1台購入、米子消防署に配置

平成 11 年 2 月 1 日 江府消防署、救急救命隊業務開始

平成 11 年 3 月 10 日 現場指揮車1台購入、米子消防署に配置

平成 11 年 3 月 31 日 境海上保安部と鳥取県西部消防局との消防業務協定

平成 11 年 4 月 1 日 消防職員1名採用

平成 11 年 5 月 7 日 鳥取県西部圏域危険物等事故対策協議会設立総会開催

平成 11 年 8 月 19 日 鳥取県西部圏域危険物等事故対策協議会合同訓練会

平成 11 年 12 月 31 日 Y2K越年警戒体制

平成 12 年 1 月 24 日 消防ポンプ自動車1台購入、米子消防署に配置

平成 12 年 1 月 24 日 タンク車1台購入、境港消防署に配置

平成 12 年 1 月 31 日 大山消防署庁舎の増築・改修工事完成

平成 12 年 2 月 21 日 救助工作車(Ⅱ型)1台購入、境港消防署に配置

平成 12 年 3 月 23 日 (財)日本損害保険協会から高規格救急車寄贈、米子消防署に配置
米子救急救命車を更新

平成 12 年 3 月 27 日 大山消防署敷地拡幅

平成 12 年 10 月 6 日 鳥取県西部地震発生(13時30分・マグニチュード7.6)

平成 13 年 1 月 15 日 高規格救急車1台購入、生山出張所に配置

平成 13 年 1 月 16 日 40m級梯子車1台購入、米子消防署に配置

平成 13 年 2 月 1 日 生山出張所、救急救命隊業務開始

平成 13 年 2 月 28 日 化学消防自動車1台購入、境港消防署に配置

平成 13 年 4 月 1 日 第6代清水 隆消防局長就任

平成 13 年 4 月 1 日 消防職員7名採用、防災支援要員4名配置

平成 13 年 4 月 1 日 鳥取県防災監危機管理課に職員1名を派遣

平成 13 年 11 月 19 日 高規格救急車1台購入、中山出張所に配置

平成 13 年 12 月 1 日 中山出張所、救急救命隊業務開始

平成 14 年 1 月 31 日 (財)日本損害保険協会からタンク車寄贈、皆生出張所に配置

平成 14 年 1 月 31 日 中山出張所改築改修工事完成

平成 14 年 4 月 1 日 第7代廣谷耕史消防局長就任

平成 14 年 4 月 1 日 消防職員3名採用

平成 14 年 4 月 1 日 大山消防署特殊災害隊発足

平成 14 年 12 月 20 日 広報車1台購入、皆生出張所に配置

平成 15 年 1 月 21 日 救助工作車(Ⅱ型)1台購入、江府消防署に配置

平成 15 年 3 月 20 日 指揮車1台購入、境港消防署に配置

平成 15 年 4 月 1 日 消防職員3名採用

平成 15 年 4 月 1 日 鳥取県防災局消防課に職員1名を派遣

平成 15 年 10 月 15 日 広報車2台購入(米子消防署・大山消防署に配置)

平成 15 年 11 月 17 日 高規格救急車1台購入、西伯出張所に配置

平成 15 年 12 月 1 日 西伯出張所、救急救命隊業務開始

平成 16 年 3 月 5 日 広報車2台購入(中山出張所・生山出張所に配置)

平成 16 年 3 月 17 日 指揮車2台購入(大山消防署・江府消防署に配置)

平成 16 年 4 月 1 日 消防職員1名採用

平成 16 年 4 月 1 日 総務省消防庁に職員1名を派遣

平成 16 年 10 月 1 日 西伯町と会見町が合併し、南部町が誕生

平成 16 年 10 月 1 日 米子消防署西伯出張所を米子消防署南部出張所に名称変更

平成 16 年 11 月 29 日 高規格救急車1台購入、溝口出張所に配置

平成 16 年 12 月 15 日 溝口出張所、救急救命隊業務開始

平成 17 年 1 月 1 日 岸本町と溝口町が合併し、伯耆町が誕生

平成 17 年 1 月 1 日 江府消防署溝口出張所を米子消防署伯耆出張所に名称変更

平成 17 年 1 月 12 日 消防ポンプ自動車1台購入、境港消防署に配置

平成 17 年 2 月 23 日 高規格救急車1台購入、弓浜出張所に配置

平成 17 年 3 月 9 日 弓浜出張所、救急救命隊業務開始

平成 17 年 3 月 28 日 大山町・名和町・中山町が合併し、大山町が誕生

平成 17 年 3 月 31 日 指令設備を更新し、高機能指令システムを導入

平成 17 年 3 月 31 日 米子市と淀江町が合併し、米子市が誕生

平成 17 年 4 月 1 日	第8代中田正男消防局長就任
平成 17 年 4 月 1 日	消防職員定員292名
平成 17 年 4 月 1 日	消防職員8名採用
平成 17 年 11 月 20 日	高規格救急車1台購入、米子消防署に配置
平成 17 年 12 月 1 日	皆生出張所、米子消防署救急2分隊高規格救急車を使用し 救急救命隊業務開始
平成 17 年 12 月 21 日	(財)日本損害保険協会から高規格救急車寄贈、皆生出張所に配置
平成 18 年 2 月 28 日	タンク車1台購入、伯耆出張所に配置
平成 18 年 4 月 1 日	消防職員2名採用
平成 18 年 4 月 1 日	総務省消防庁に職員1名派遣
平成 18 年 11 月 24 日	米子市危険物保安協会から広報車1台寄贈、消防局に配置
平成 19 年 2 月 23 日	タンク車1台購入、大山消防署に配置
平成 19 年 4 月 1 日	米子消防署 新庁舎完成
平成 19 年 4 月 1 日	消防職員2名採用
平成 19 年 11 月 28 日 ～ 29 日	平成19年度中国・四国ブロック 緊急消防援助隊合同訓練
平成 19 年 12 月 24 日	化学車1台購入、米子消防署に配置
平成 19 年 12 月 31 日	消防無線基幹改良工事
平成 20 年 1 月 31 日	高規格救急車1台購入、大山消防署に配置
平成 20 年 4 月 1 日	第9代浦木 昇消防局長就任
平成 20 年 4 月 1 日	消防職員3名採用
平成 20 年 4 月 1 日	総務省消防庁に職員1名派遣
平成 21 年 1 月 28 日	消防ポンプ自動車1台購入、生山出張所に配置
平成 21 年 2 月 19 日	高規格救急車1台購入、米子消防署に配置
平成 21 年 4 月 1 日	消防職員5名採用
平成 21 年 11 月 2 日	高度救助隊発足
平成 21 年 12 月 9 日	国際消防救助隊編成協力市町村の登録
平成 22 年 1 月 26 日	高規格救急車1台購入、江府消防署に配置
平成 22 年 2 月 15 日	消防ポンプ自動車1台購入、皆生出張所に配置
平成 22 年 3 月 26 日	高規格救急車1台購入、境港消防署に配置
平成 22 年 4 月 1 日	第10代桑名 強消防局長就任
平成 22 年 4 月 1 日	消防職員定員304名
平成 22 年 4 月 1 日	消防職員14名採用
平成 22 年 4 月 1 日	国際消防救助隊員6名登録
平成 23 年 1 月 14 日	支援車 I 型を総務省より無償使用、消防局に配置
平成 23 年 2 月 24 日	消防ポンプ自動車2台購入、弓浜出張所・中山出張所に配置
平成 23 年 3 月 7 日	高規格救急車1台購入、生山出張所に配置
平成 23 年 3 月 12 日 ～ 21 日	東日本大震災により、宮城県南三陸町へ緊急消防援助隊鳥取県隊として出動
平成 23 年 4 月 1 日	消防職員定員313名
平成 23 年 4 月 1 日	消防職員20名採用

歴代の管理者・議長・消防長

歴代管理者

米子市長	河合弘道 (S47. 4. 30～S58. 4. 29)
〃	松本徹 (S58. 4. 30～H 3. 4. 29)
〃	森田隆朝 (H 3. 4. 30～H15. 4. 29)
〃	野坂康夫 (H15. 4. 30～)

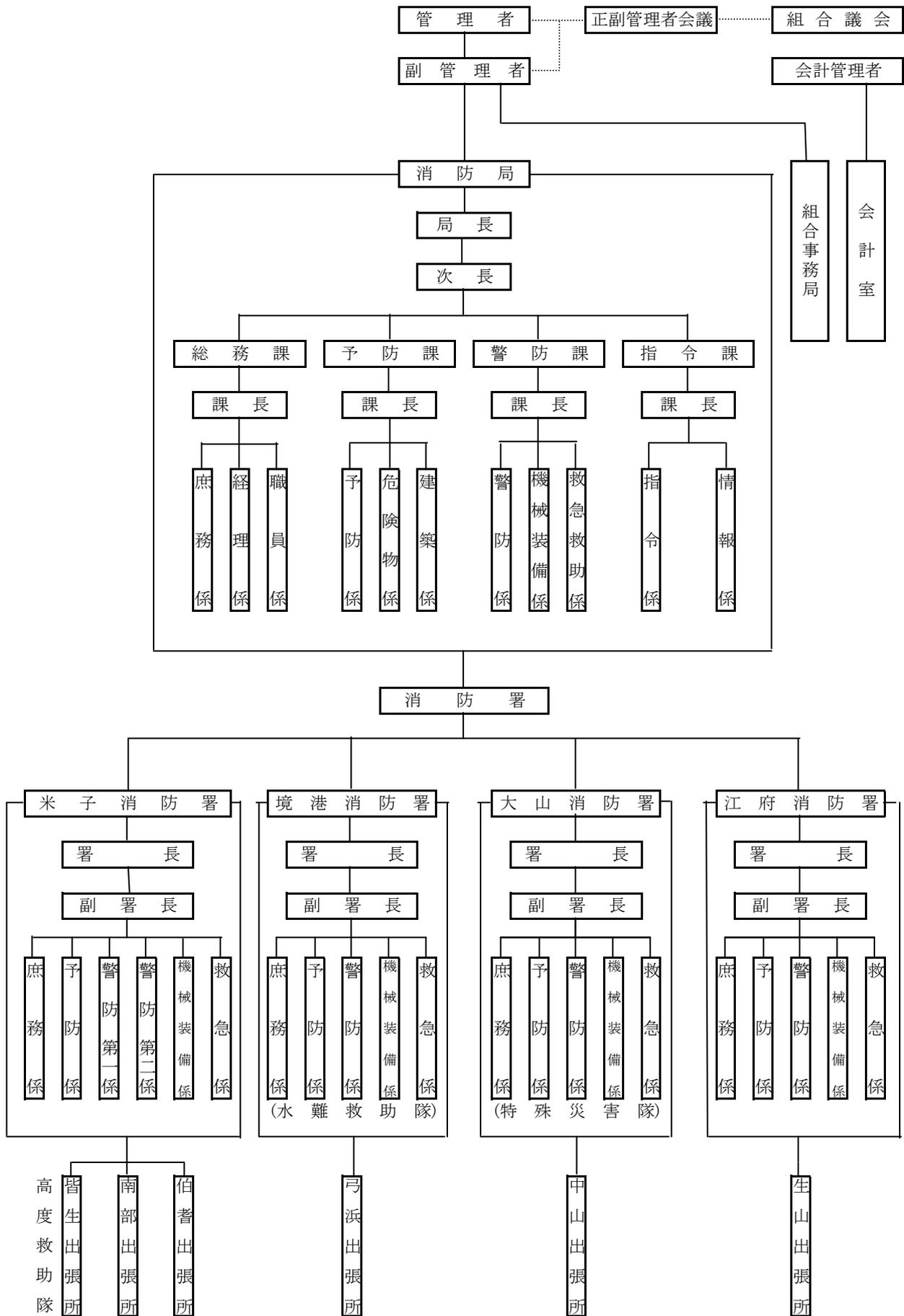
歴代議長

初代	足立六郎 (米子市) S47. 8.16～S50. 4.30
二代	田丸喜久治 (") S50. 7.28～S54. 4.30
三代	安達昭男 (") S54. 6. 2～S56. 6.29
四代	田村繁夫 (") S56.10.16～S57.12. 9
五代	福谷清 (") S58. 1.31～S58. 4.30
六代	広江弑 (") S58. 6.10～S59. 7.19
七代	国尾茂 (") S59.10. 8～S61. 7.17
八代	茅野恒治 (") S61. 9. 5～S62. 4.30
九代	種原敏彦 (") S62. 6.11～H元. 6.23
十代	塚田喜美 (") H元. 6.23～H 3. 4.30
十一代	福谷清 (") H 3. 6.13～H 5. 6.25
十二代	足芝孝幸 (") H 5.10.25～H 7. 4.30
十三代	間瀬庄作 (") H 7. 7.13～H11. 4.30
十四代	平田賢 (") H11. 7.29～H13. 6.22
十五代	中本実夫 (") H13. 7.12～H15. 4.30
十六代	生田薫 (") H15. 7.28～H17.3.30
十七代	生田薫 (") H17. 4.15～H18.6.30
十八代	吉岡知己 (") H18.7.20～ H20.7.10
十九代	中村昌哲 (") H20.7.25～ H22.6.30
二十代	渡辺照夫 (") H22.8.24～

歴代消防長・消防局長

初代消防長	名和義則 S51. 5. 2～S57. 3.31
第二代消防長	仲田末男 S57. 4. 1～S59. 6.30
第三代消防長	西田英二 S59. 7. 1～H元. 3.31
第四代消防長	岩佐弘志 H元. 4. 1～H 7. 3.31
第五代消防局長	石上洋二 H 7. 4. 1～H13. 3.31
第六代消防局長	清水隆 H13. 4. 1～H14. 3.31
第七代消防局長	廣谷耕史 H14. 4. 1～H17. 3.31
第八代消防局長	中田正男 H17. 4. 1～H20.3.31
第九代消防局長	浦木昇 H20. 4. 1～H22.3.31
第十代消防局長	桑名強 H22. 4. 1～

鳥取県西部広域行政管理組合消防局組織図



消 防 機 関 の 出 動 状 況

〔平成22年中（平成22年1月1日～平成22年12月31日）〕

区 分		種 別	計	火 災	救 急 業 務	救 助 活 動
			(ア)～(ス)	(ア)	(イ)	(ウ)
消・防署 局所	出 動 回 数		12,538	100	8,975	155
	出 動 延 人 員		46,138	1,256	28,599	1,986

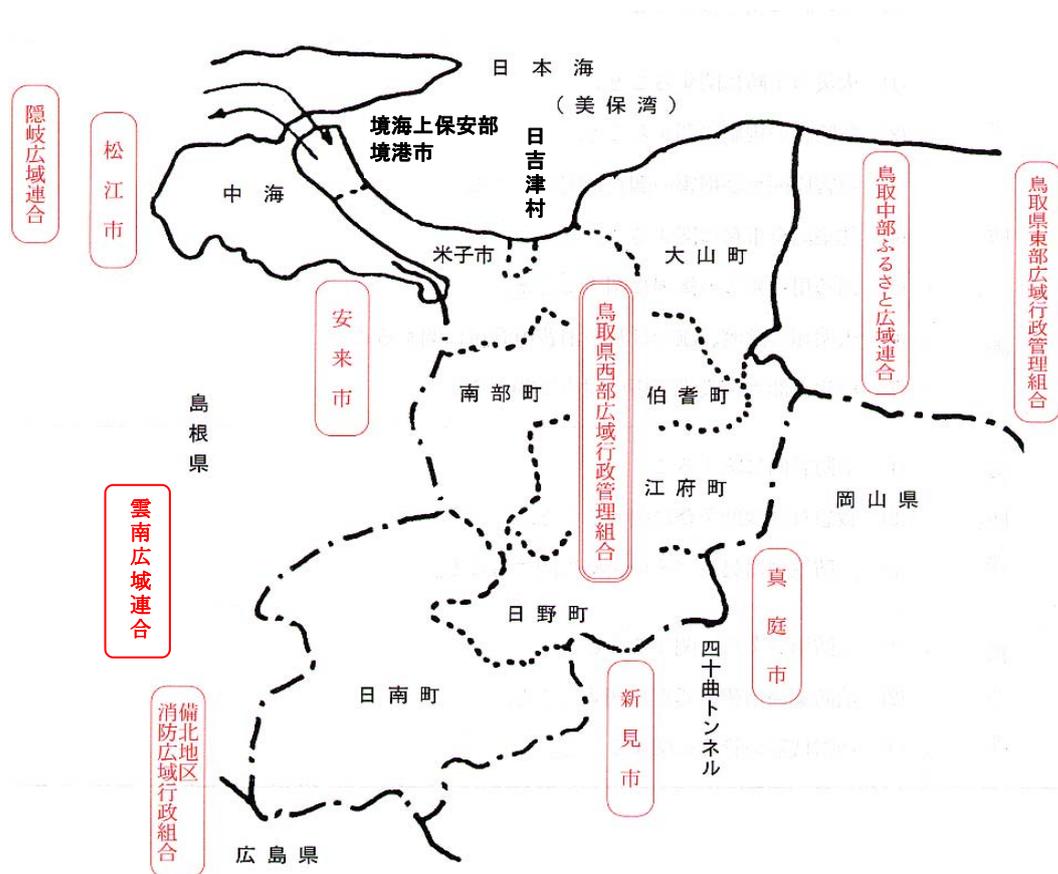
風水害等の災害 (エ)	演 習 訓 練 (オ)	訓 練 ・ 指 導 (カ)	警 防 調 査 (キ)	火 災 原 因 調 査 (ク)
0	33	198	1,089	100
0	267	871	4,313	660

特 別 警 戒 (ケ)	捜 索 (コ)	予 防 査 察 (サ)	誤 報 等 (シ)	そ の 他 (ス)
34	0	1,154	14	686
141	0	3,462	156	4,427

相互応援協定

平成23年4月1日現在

名 称	協 定 団 体	締結・改訂年月日
中海地区消防相互応援協定	松江市 (島根県) 安来市 (")	平成元年 4月 1日
隠岐島の救急業務の共同処理	松江市 (島根県) 出雲市 (") 隠岐広域連合 (")	平成14年 1月 1日 (改)
高速自動車国道中国横断自動車道岡山米子線における消防相互応援に関する協定	真庭市 (岡山県)	平成17年10月 1日 (改)
山陰道(米子～安来)における消防相互応援に関する協定	安来市 (島根県)	平成10年 3月18日
鳥取県下広域消防相互応援協定	鳥取県東部広域行政管理組合 鳥取中部ふるさと広域連合	平成19年 4月30日 (改)
鳥取県西部広域行政管理組合と備北地区消防広域行政組合の消防相互応援協定	備北地区消防広域行政組合 (広島県)	平成12年 3月31日
消防相互応援に関する協定書	新見市 (岡山県) 真庭市 (")	平成17年10月 1日 (改)
	雲南広域連合 (島根県)	



事 務 分 掌

1. 消防局事務分掌

平成23年4月1日現在

総 務 課	<ul style="list-style-type: none"> (1) 人事、給与、服務及び例規に関する事。 (2) 総合計画及び企画に関する事。 (3) 予算及び経理に関する事。 (4) 消防用財産に関する事。 (5) 職員の研修に関する事。 (6) 他の課に属さない事。
予 防 課	<ul style="list-style-type: none"> (1) 火災の予防に関する事。 (2) 危険物の規制に関する事。 (3) 火災原因及び損害の調査に関する事。 (4) 建築同意事務に関する事。 (5) 消防用設備等の指導に関する事。 (6) 火薬類の譲渡、譲受け及び消費の許可に関する事。 (7) 液化石油ガス設備工事の届出に関する事。
警 防 課	<ul style="list-style-type: none"> (1) 消防計画に関する事。 (2) 救急及び救助業務に関する事。 (3) 消防機械器具及びその装備に関する事。
指 令 課	<ul style="list-style-type: none"> (1) 消防指令業務に関する事。 (2) 消防関係情報の処理に関する事。 (3) 通信機器の管理に関する事。

2. 消防署事務分掌

庶務係	<ul style="list-style-type: none"> (1) 署内人事及び賞罰に関すること。 (2) 署員の教養訓練及び服務に関すること。 (3) 経理に関すること。 (4) 各種統計に関すること。 (5) 他の分掌に属さないこと。
予防係	<ul style="list-style-type: none"> (1) 災害の調査に関すること。 (2) 予防査察に関すること。 (3) 危険物の規制に関すること。 (4) 建築同意に関すること。 (5) 火災予防の啓発、宣伝に関すること。 (6) 火災原因及び損害の調査に関すること。 (7) 液化石油ガス設備工事の届出に関すること。
警米防第子一係署	<ul style="list-style-type: none"> (1) 水火災の警戒、防ぎよに関すること。 (2) 水火災の警防計画に関すること。 (3) 消防訓練の実施に関すること。 (4) 災害の情報の処理に関すること。 (5) 救助業務に関すること。
警米防第子二係署	<ul style="list-style-type: none"> (1) 消防用地理、水利の点検及び調査に関すること。 (2) 消防用器具の維持管理に関すること。 (3) 水火災その他災害情報連絡及び消防通信に関すること。

警 境 港 署 ・ 大 防 山 署 ・ 江 府 係 署	<ul style="list-style-type: none"> (1) 水火災の警戒、防ぎよに関する事。 (2) 水火災の警防計画及び訓練の実施に関する事。 (3) 消防用地理、水利の点検及び調査に関する事。 (4) 消防用器具の維持管理に関する事。 (5) 水火災その他災害情報連絡及び消防通信に関する事。 (6) 救助業務に関する事。
装 機 備 係	<ul style="list-style-type: none"> (1) 消防機械に関する教養及び訓練に関する事。 (2) 消防機械の整備、保全及び検査に関する事。
救 急 係	<ul style="list-style-type: none"> (1) 救急隊業務に関する事。 (2) 救急指定医療機関との連携調整に関する事。 (3) 救急統計、報告等に関する事。

3. 出張所事務分掌

<ul style="list-style-type: none"> (1) 火災その他災害防ぎよに関する事。 (2) 文書の收受、発送及び記録の整備保全に関する事。 (3) 庁舎の維持管理及び諸物品の保管に関する事。 (4) 所属職員の教養訓練に関する事。 (5) 予防査察に関する事。 (6) 火災予防条例による届出に基づく調査指導に関する事。 (7) 火災予防の啓発、宣伝に関する事。 (8) 火災原因及び損害の調査に関する事。 (9) 消防用地理、水利の点検及び調査に関する事。 (10) 消防用器具及び消防機械の整備保全に関する事。 (11) 水火災その他災害情報連絡及び消防通信に関する事。 (12) 救急業務に関する事。 (13) 救助業務に関する事。 (14) その他出張所に関する事。

消 防 職 員

(1-1)職員配置状況

平成23年4月1日現在

区 分	条 例 定 員	実 員	消 防 正 監	消防監	消 防 司 令 長	消 防 司 令	消 防 司 令 補	消 防 士 長	消 防 副 士 長	消防士	事 務 職 員
昭51. 5. 1	143	112		1	4	5	14	30	7	48	3
昭51. 7. 1	143	143		1	4	5	14	30	7	79	3
昭52. 4. 1	208	206	1	2	2	3	18	40	5	132	3
昭53. 4. 1	208	207	1	2	2	4	25	43	7	120	3
昭54. 4. 1	220	220	1	1	3	5	25	50	5	127	3
昭55. 4. 1	232	232	1	2	2	10	22	50	16	126	3
昭56. 4. 1	242	242	1	2	3	8	22	48	16	140	2
昭57. 4. 1	246	246	1		7	8	23	53	11	141	2
昭58. 7. 1	246	246	1	2	5	9	31	48	31	117	2
昭59. 7. 1	246	246	1	2	6	9	30	51	28	117	2
昭60. 7. 1	246	245	1	1	7	9	30	52	28	115	2
昭61. 3. 31	246	245	1	1	7	6	32	52	28	116	2
昭62. 3. 31	246	245	1	1	7	7	31	52	28	116	2
昭63. 3. 31	246	245	1	2	6	7	33	51	28	115	2
平元. 4. 1	253	253	1	2	6	7	33	52	28	112	2
平 2. 4. 1	258	258	1	2	6	7	36	57	32	115	2
平 3. 4. 1	262	262	1	2	6	11	38	59	33	110	2
平 4. 4. 1	264	264	1	2	6	11	43	63	33	103	2
平 5. 4. 1	277	277	1	2	6	13	48	63	43	99	2
平 6. 4. 1	284	284	1	1	7	14	49	66	53	91	2
平 7. 4. 1	284	284	1	2	8	12	54	67	55	83	2
平 8. 4. 1	287	284	1	2	8	12	60	71	53	75	2
平 9. 4. 1	287	287	1	2	8	12	63	72	53	74	2
平10. 4. 1	287	287	1	2	8	12	64	74	56	68	2
平11. 4. 1	287	287	1	2	8	12	64	74	56	68	2
平12. 4. 1	287	286	1	2	8	13	63	74	56	67	2
平13. 4. 1	287	287	1	2	8	14	63	74	57	66	2
平14. 4. 1	287	287	1	2	8	15	63	82	51	63	2
平15. 4. 1	287	287	1	2	8	15	64	91	38	66	2
平16. 4. 1	287	287	1	2	9	33	59	91	37	53	2
平17. 4. 1	292	290	1	3	11	38	63	90	36	46	3
平18. 4. 1	292	291	1	2	12	47	72	91	29	34	3
平19. 4. 1	292	292	1	2	14	45	77	89	28	33	3
平20. 4. 1	292	292	1	2	14	47	78	89	27	31	3
平21. 4. 1	292	292	1	5	11	49	77	110	3	34	2
平22. 4. 1	304	303	1	3	14	54	79	113	11	26	2
平23. 4. 1	313	313	1	3	15	62	102	81	4	43	2

(1-2)職員配置状況

平成23年4月1日

		実 員	消防 正 監	消防監	消防 司令長	消防 司令	消防 司令補	消防 士長	消防 副士長	消防士	事務 吏員
消 防 局	消防局長	1	1								
	次 長	4		3							1
	総務課	27			1	3	1	1		20	1(1)
	予防課	7			2	2	2	1			
	警防課	5		(1)	1	3	1				
	指令課	15		(1)	1	5	6	3			
	派遣中の者	4				1		3			
米子 消防署	本 署	53		(1)	2	9	18	13	1	10	
	皆生出張所	27			1	3	5	17		1	
	南部出張所	14				3	8	2		1	
	伯耆出張所	14				3	6	4		1	
境港 消防署	本 署	43			3	7	10	16	2	5	
	弓浜出張所	14				3	8	3			
大山 消防署	本 署	28			2	7	13	4		2	
	中山出張所	14				3	8	3			
江府 消防署	本 署	29			2	7	11	7		2	
	生山出張所	14				3	6	4	1		
合 計		313	1	3	15	62	103	81	4	42	2

()は兼務

(2)職員在職年数

平成23年4月1日現在

	計	消防 正監	消防監	消防 司令長	消防 司令	消防 司令補	消防 士長	消防 副士長	消防士	事務 吏員
人数	313	1	3	15	62	102	81	4	43	2
平均年数	23	34	38	35	33	30	16	7	1	2
1年未満	20								20	
1年	14								14	
2年	7								5	2
3年	3						1		2	
4年	2						1		1	
5年	2						1		1	
6年	8						6	2		
7年	1							1		
8年	3						2	1		
9年	3						3			
10年	6						6			
11年										
12年	1						1			
13年	1						1			
14年	5						5			
15年										
16年	3						3			
17年	11						11			
18年	14						14			
19年	4						4			
20年	11					5	6			
21年	6					3	3			
22年	10					4	6			
23年	3					3				
24年	5					4	1			
25年	4					4				
26年	5				1	4				
27年	4				1	3				
28年	3					3				
29年	12				3	7	2			
30年	10				2	7	1			
31年	13				7	5	1			
32年	14				3	11				
33年	4				1	3				
34年	82	1		5	38	36	2			
35年	10			6	4					
36年										
37年	1			1						
38年	7		2	3	2					
39年	1		1							
40年										
41年										
42年										
43年										
44年										
45年										

(3)職員年齢構成

平成23年4月1日現在

	計	消防 正監	消防監	消防 司令長	消防 司令	消防 司令補	消防 士長	消防 副士長	消防士	事務 吏員	年齢 合計
人数	313	1	3	15	62	102	81	4	43	2	
平均年齢	44.1	58.0	56.7	56.1	54.0	50.5	37.1	27.8	23.3	52.0	
18歳未満											
18歳	5								5		90
19歳	1								1		19
20歳	1								1		20
21歳	5								5		105
22歳	6								6		132
23歳	7								7		161
24歳	3								3		72
25歳	4						1	1	2		100
26歳	6								6		156
27歳	2								2		54
28歳	5						1	1	3		140
29歳	6						3	2	1		174
30歳	4						4				120
31歳	3						2		1		93
32歳	5						5				160
33歳	5						5				165
34歳	3						3				102
35歳	6						6				210
36歳	12						12				432
37歳	6						6				222
38歳	12					2	10				456
39歳	7					2	5				273
40歳	8					2	6				320
41歳	5					3	2				205
42歳	6					4	2				252
43歳	3					3					129
44歳	3					3					132
45歳	2					1	1				90
46歳	5				1	3	1				230
47歳	6				1	4				1	282
48歳	6				1	5					288
49歳	8				6	2					392
50歳	8				1	7					400
51歳	8				1	7					408
52歳	24				8	13	3				1,248
53歳	15			2	3	9	1				795
54歳	15			2	6	7					810
55歳	19			1	12	5	1				1,045
56歳	20		2	2	8	7	1				1,120
57歳	24			6	8	9				1	1,368
58歳	8	1	1		5	1					464
59歳	6			2	1	3					354
60歳											

(4) 職員研修

ア. 委託研修

平成23年4月1日現在

年度別 教育内容		計	元	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	
			年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年
消防 大 学 校	本科	10	5			1			1			1			1			1							
	幹部科	3		1																	1	1			
	上級幹部科	2	1																		1				
	予防科	13	10					1			1		1												
	警防科	12	7				1		1	1					1					1					
	救急科	7	4		1														2						
	救助科	5	1	1			1						1		1								1		
	危険物(保安)科	2	1																		1				
	火災原因調査科	2	2																						
	機械技術者養成科	1	1																						
	火災調査科	1																	1						
	火災調査講習会	5		1		1							1	1	1										
	危機管理セミナー	3																1	1	1					
	緊急消防援助隊教育科 (NBC対策コース)	1																			1				
	緊急消防援助隊教育科 (部隊指揮コース)	1																			1				
高度救助コース	1																							1	
防災講習会	1								1																
危機管理講習会	1									1															
島根県消防学校	1																	1							
救急救命東京研修所	37			1	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1	3	2	2	2	1	
救急救命九州研修所	28								2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	3	1	2	2	2	1	
救急救命土業務実地修練	10					1	1	1	1	1	1	1			1		1	1							
海上自衛隊第一術科学校	4									2	1	1													
独立行政法人 海洋研究開発機構 (潜水技術研修)	9														2	2	2	1	1	1					
陸上自衛隊化学学校	1													1											
鈴鹿サーキット交通教育	6														1	1	1	1	1	1					
鳥取 県 消 防 学 校	初任教育	123	37	7	11	4	15	11	3		5	1	1		7	3	3		8	2	2	3	5	14	
	現任教育	38	28	10																					
	幹部教育	107	30	5	5	5	4	5	5	4	5	5	5	5	5	5	5	5	4						
	中級幹部教育																					5	5	5	5
	課・署長研修会	5																5							
	救急Ⅰ課程	68		12			15	15	15	11															
	救急Ⅱ課程	180			11	11	11	11	11	25	20	20	8	12	7	21	12								
	救急科	61											6	4	7		12	11		6	8	7		14	
	救急実務研修会	14											3		3	3	5								
	救急救命士講習(挿管)	42																8	22	12					
	救急救命士講習(薬剤)	44																		6	16	8	14		
	外傷研修	25																	5	10	10				
	危険物科	15		5		5							5												
	救助科	75	20		5	5			5	5	5			5	5	5	5	5	5					4	
	特殊災害科	14																5	5	4					
	無線通信科	19		5						14															
	機関科	10			5								5												
	火災調査科	44				5			5	4	5	5		5	5	5		5							
	電気設備科	14	9		5																				
	予防査察科	29	10				4											5		5		5	5		
警防科	23				4	5				4					5		5								
予防科	20			5			5					5					5				5				
梯子自動車講習会	12					12																			
昇任者研修	6																					6	5		
指揮研修	5																					5		10	
管理職研修	5																							5	

イ. 局内教養研修及び訓練

平成23年3月31日現在

研修内容	研修回数	延 人 員
予 防 研 修	7	48
警 防 研 修 及 び 訓 練	14	44
救 助 研 修 及 び 訓 練	146	1784
水 難 救 助 研 修 及 び 訓 練	2	4
救 急 研 修 及 び 訓 練	48	164
一 般 教 養 研 修	7	252
計	224	2296

- 日本臨床救急医学会 6名
- 全国救急隊員シンポジウム 23名
- 日本救急医学会中国四国地方会 7名
- 山陰救急医学会 23名
- 日本集団災害医学会 7名

(5) 職員採用試験(平成22年4月1日採用)

第 1 次 教養試験 } 平成22年9月19日 消防局
 適性検査 } 鳥取県消防学校
 体力試験 }

第 2 次 作文試験 } 平成22年10月27日 消防局
 面接試験 }

	総 数	高 校 卒	短 大 卒	大 学 卒
応 募 者	140	50	34	56
合 格 者	20	6	4	10

消防予算の状況



消 防 予 算 の 状 況

(1) 平成23年度当初予算額の対前年度比較

(単位:千円)

科	目	平成23年度予算	平成22年度予算	比 較 増 減
(款) 消 防 費		3,102,913	2,968,971	133,942
(項) 消 防 費		3,102,913	2,968,971	133,942
(目) 1 常備消防費		2,887,315	2,823,511	63,804
(節) 1 報	酬	1,620	1,620	0
2 給	料	1,318,065	1,265,090	52,975
3 職 員 手 当 等		865,818	865,432	386
4 共 済 費		454,701	406,774	47,927
5 災 害 補 償 費		10	10	0
8 報 償 費		379	402	△ 23
9 旅 費		1,846	2,023	△ 177
10 交 際 費		10	10	0
11 需 用 費		101,160	92,875	8,285
12 役 務 費		26,202	29,111	△ 2,909
13 委 託 料		43,028	51,330	△ 8,302
14 使 用 料 及 び 貸 借 料		11,771	11,350	421
16 原 材 料 費		180	180	0
18 備 品 購 入 費		1,080	1,383	△ 303
19 負 担 金 補 助 及 び 交 付 金		18,895	15,488	3,407
22 補 償 補 填 及 び 賠 償 費		300	350	△ 50
25 積 立 金		39,830	76,483	△ 36,653
27 公 課 費		2,420	3,600	△ 1,180
(目) 2 消防施設費		215,598	145,460	70,138
(節) 11 需 用 費		13,150	41,161	△ 28,011
13 委 託 料		2,045	0	2,045
15 工 事 請 負 費		45,779	5,762	40,017
18 備 品 購 入 費		152,435	96,365	56,070
19 負 担 金 補 助 及 び 交 付 金		2,189	2,172	17

(2) 平成23年度当初予算額の財源内訳

(単位:千円)

区 分 科 目	予 算 額	財 源 内 訳			
		特定財源			一般財源
		国・県支出金	地 方 債	そ の 他	
(款) 消 防 費	3,102,913	34,002	123,800	165,274	2,779,837
(項) 消 防 費	3,102,913	34,002	123,800	165,274	2,779,837
(目) 常備消防費	2,887,315	6,777	0	163,638	2,716,900
(目) 消防施設費	215,598	27,225	123,800	1,636	62,937

(3) 平成22年度決算額

(単位:円)

科 目	当初予算額	予算現額	決算見込額
(款) 消 防 費	2,968,971,000	3,096,669,000	3,095,360,729
(項) 消 防 費	2,968,971,000	3,096,669,000	3,095,360,729
(目) 1 常備消防費	2,823,511,000	2,954,593,000	2,954,593,000
(節) 1 報 酬	1,620,000	1,620,000	1,620,000
2 給 料	1,265,090,000	1,263,983,175	1,263,983,175
3 職 員 手 当 等	865,432,000	947,725,942	947,725,942
4 共 済 費	406,774,000	435,159,013	435,159,013
5 災 害 補 償 費	10,000	0	0
8 報 償 費	402,000	305,600	305,600
9 旅 費	2,023,000	3,259,540	3,259,540
10 交 際 費	10,000	0	0
11 需 用 費	92,875,000	97,330,239	97,330,239
12 役 務 費	29,111,000	25,865,274	25,865,274
13 委 託 料	51,330,000	49,085,180	49,085,180
14 使 用 料 及 び 貸 借 料	11,350,000	10,927,096	10,927,096
16 原 材 料 費	180,000	73,858	73,858
18 備 品 購 入 費	1,383,000	1,287,912	1,287,912
19 負 担 金 補 助 及 び 交 付 金	15,488,000	14,785,716	14,785,716
22 補 償 補 填 及 び 賠 償 費	350,000	72,720	72,720
25 積 立 金	76,483,000	100,563,885	100,563,885
27 公 課 費	3,600,000	2,547,850	2,547,850
(目) 2 消防施設費	145,460,000	142,076,000	140,767,729
(節) 11 需 用 費	41,161,000	45,015,000	43,848,310
13 委 託 料	0	0	0
15 工 事 請 負 費	5,762,000	5,357,000	5,356,050
18 備 品 購 入 費	96,365,000	89,532,000	89,456,902
19 負 担 金 補 助 及 び 交 付 金	2,172,000	2,172,000	2,106,467

消 防 施 設



消 防 施 設

(1) 消防庁舎の位置・構造

平成23年4月1日現在

名 称	所 在 地	構 造	建物延面積	敷地面積
消 防 局		鉄骨鉄筋コンクリート造6階建	3,972.30	
主 訓 練 塔	米子市両三柳5452番地	鉄骨鉄筋コンクリート造7階建	637.00	6,865.23
副 訓 練 塔		鉄骨造2階建	141.00	
米 子 消 防 署	米子市富士見町 1丁目103番地1	鉄筋コンクリート造3階建	2,305.35	2,211.85
米 子 消 防 署 皆 生 出 張 所	米子市皆生5丁目 8番5号	鉄筋コンクリート造平屋建	489.08	1,015.04
米 子 消 防 署 南 部 出 張 所	西伯郡南部町 清水川3番地1	"	285.81	749.18
米 子 消 防 署 伯 耆 出 張 所	西伯郡伯耆町 溝口20番地4	"	281.67	900.96
境 港 消 防 署	境港市中野町2116番地	鉄筋コンクリート造2階建	1,565.70	5,560.00
境 港 消 防 署 弓 浜 出 張 所	米子市大篠津町 2913番地1	鉄筋コンクリート造平屋建 鉄骨造平屋建(自動車車庫)	199.88 52.00	746.00
大 山 消 防 署	西伯郡大山町 末吉403番地2	鉄筋コンクリート造平屋建 鉄骨造2階建	503.50	1,884.87
大 山 消 防 署 中 山 出 張 所	西伯郡大山町長野 880番地3	鉄筋コンクリート造平屋建 (一部鉄骨造)	330.29	1,136.38
江 府 消 防 署	日野郡江府町大字 武庫1390番地3	鉄筋コンクリート造 鉄骨造2階建	513.66	1,051.00
江 府 消 防 署 生 山 出 張 所	日野郡日南町 生山349番地1	鉄筋コンクリート造平屋建	229.70	782.20
古 峠 山 無 線 所 中 継 所	西伯郡伯耆町二部字 間地山2143番地1	鉄骨造平屋建鉄板章 付属設備(送受信塔)鉄骨造 16.5m	28.73	100.00
日 南 前 進 基 地	日野郡日南町萩原字 原林490番地2	鉄骨造平屋建ALC版 付属設備(送受信塔)鉄骨造 15m	6.18	25.00

(2) 消防吏員待機宿舎概要

名 称	所 在 地	構 造	建物延面積	敷地面積
生山北寮(独身寮) 消防待機宿舎北寮	日野郡日南町 生山349番地	鉄筋コンクリート造平屋建	107.00	365.14
生山南寮(世帯寮) 消防待機宿舎南寮	日野郡日南町 生山454番地	鉄筋コンクリート造平屋建 (3世帯)	147.00	380.58

(3)消防車輛等配置数

平成23年4月1日現在

推 移	車 種 別			総 数	消 防 ボ ン プ 自 動 車	水 槽 付 消 防 ボ ン プ 自 動 車	化 学 消 防 自 動 車	は し ご 付 消 防 自 動 車	救 助 工 作 車	高 発 泡 車	救 急 自 動 車 (2B)	救 急 自 動 車 (高規格)	指 揮 車	査 察 ・ 広 報 車	作 業 車	消 防 艇	電 源 ・ 照 明 車	資 機 材 搬 送 車	そ の 他 車 輛
	昭	平	元																
昭 51.	10.	1	28	10	3	2	1				6		2	3	1				
昭 52.	4.	1	36	15	3	2	2				7		2	4	1				
昭 54.	4.	1	51	21	4	3	2	1			8		2	9	1				
昭 57.	4.	1	58	21	4	3	2	2			10		2	13	1				
昭 62.	4.	1	56	19	4	2	2	2			11		3	12	1				
昭 63.	4.	1	59	19	4	2	2	2			11		5	10	1		1	1	1
平 元.	4.	1	60	20	4	2	2	2			11		5	10	1		1	1	1
平 2.	4.	1	61	20	4	2	2	2			12		5	10	1		1	1	1
平 3.	4.	1	67	21	4	2	2	2			12		5	15	1		1	1	1
平 4.	4.	1	68	21	4	3	2	2			12		5	16	1		1		1
平 5.	4.	1	70	21	4	3	2	2			12	1	5	17	1		1		1
平 6.	4.	1	72	21	4	3	2	2			12	1	5	19	1		1		1
平 7.	4.	1	75	21	4	3	2	2			12	2	5	21	1		1		1
平 8.	4.	1	76	21	4	3	2	3			12	2	5	21	1		1		1
平 9.	4.	1	78	21	4	3	3	3			12	2	5	22	1		1		1
平 10.	4.	1	80	21	4	3	3	3			11	3	5	22	1		1	1	2
平 11.	4.	1	80	21	4	3	3	3			10	4	5	21	1		1	1	3
平 12.	4.	1	81	21	4	3	3	3			9	5	5	22	1		1	1	3
平 13.	4.	1	81	21	4	3	3	3			9	5	5	21	1		1	1	4
平 14.	4.	1	81	21	4	3	3	3			9	5	5	21	1		1	1	4
平 15.	4.	1	81	21	4	3	3	3			9	5	5	21	1		1	1	4
平 16.	4.	1	81	21	4	3	3	3			7	7	5	21	1		1	1	4
平 17.	4.	1	81	21	4	3	3	3			5	9	5	21	1		1	1	4
平 18.	4.	1	81	21	5	3	3	3			3	11	5	21	1		1	1	4
平 19.	4.	1	82	20	6	3	3	3			2	12	5	21	1		1	1	4
平 20.	4.	1	78	18	6	3	3	3			1	13	5	21	1			1	3
平 21.	4.	1	78	18	6	3	3	3				14	5	21	1			1	3
平 22.	4.	1	78	18	6	3	3	3				14	5	21	1			1	3
平 23.	4.	1	78	18	6	3	3	3				14	5	21	1			1	3

平成 23 ・ 4 ・ 1	消 防 局		13								2	1	7	1					2	
	米消 防 子署	本 署	15	4	1	1	1					2	1	4					1	
		皆生出張所	6	1	1		1	1				1		1						
		南部出張所	4	2								1		1						
		伯耆出張所	4	1	1							1		1						
	境消 防 港署	本 署	13	2	1	2	1	1				2	1	2						1
		弓浜出張所	4	2								1		1						
	大消 防 山署	本 署	5	1	1							1	1	1						
		中山出張所	4	2								1		1						
	江消 防 府署	本 署	6	1	1			1				1	1	1						
		生山出張所	4	2								1		1						
	計		78	18	6	3	3	3	0	0	14	5	21	1	0	0	0	1	3	

(4) 消防車両概況

平成23年4月1日現在

所属	車号	登録番号	車名	機装	購入年月日	摘要
消防局	局救急1号車	鳥取88に3544	トヨタ	高規格車 4WD	平成 9. 9. 18	消防庁補助
	局救急2号車	鳥取800さ1286	トヨタ	高規格車 4WD	平成13. 1. 15	消防庁補助
	局指揮車	鳥取800さ4412	ニッサン		平成19. 3. 29	
	広報1号車	鳥取88す 988	ニッサン		平成 5. 8. 30	寄贈 日本消防協会
	広報2号車	鳥取45せ3407	マツダ		平成 6. 5. 26	
	広報3号車	鳥取500ね325	ニッサン		平成18. 11. 24	寄贈 米子危保協会
	局査察1号車	鳥取40ほ8367	ホンダ		平成 3. 7. 12	
	局査察2号車	鳥取40む2123	三菱		平成 5. 5. 24	
	局査察3号車	鳥取40む2124	三菱		平成 5. 5. 24	
	局査察5号車	鳥取40め3583	スズキ		平成 6. 5. 10	
	支援車	鳥取800は 512	日野	支援車 I型	平成23. 1. 12	総務省より無償使用
	連絡車	鳥取300た1821	ニッサン		平成16. 5. 27	
	作業車	鳥取45さ7145	トヨタ	1.5t	平成元. 11. 2	
米子消防署	1号車	鳥取800さ 654	三菱	CD-I・A2	平成12. 1. 24	消防庁補助
	2号車	鳥取88に4492	いすゞ	CD-I・A2	平成11. 1. 25	消防庁補助
	3号車	鳥取88に2581	三菱	CD-I・A2	平成 8. 1. 22	消防庁補助
	5号車	鳥取88に3128	三菱	CD-I・A2	平成 9. 1. 31	消防庁補助
	タンク車	鳥 88に4491	日野	I-A	平成11. 1. 25	消防庁補助
	化学車	鳥取800は387	日野	II型	平成19. 12. 14	
	梯子車	鳥取800は110	ニッサン	40m級	平成13. 3. 16	消防庁補助
	救急1号車	鳥取800さ3901	トヨタ	高規格車 4WD	平成17. 11. 20	
	救急2号車	鳥取800さ5065	トヨタ	高規格車 4WD	平成21. 2. 19	
	指揮車	鳥取88に4603	トヨタ		平成11. 3. 10	
皆生出張所	資材搬送車	鳥取88に3730	三菱	2t	平成 9. 12. 25	
	米子広報1号車	鳥取800さ2987	ニッサン		平成15. 10. 15	
	米子広報2号車	鳥取88に1311	トヨタ		平成 4. 9. 16	寄贈 日本防火協会
	米子査察1号車	鳥取40ほ8366	ホンダ		平成 3. 7. 12	
	米子査察2号車	鳥取40め3582	スズキ		平成 6. 5. 10	
	1号車	鳥取800さ5365	三菱		平成22. 2. 15	
	タンク車	鳥 800さ2061	日野	I-B	平成14. 1. 31	寄贈 日本消防協会
	救助工作車	鳥取88ゆ 637	日野	III型	平成 8. 3. 28	消防庁補助
南部出張所	梯子車	鳥取88に 476	三菱	15m級	平成元. 10. 26	消防庁補助
	救急車	鳥取800さ3939	トヨタ	高規格車 4WD	平成17. 12. 21	寄贈 損害保険協会
	広報車	鳥取800さ2543	ニッサン		平成14. 12. 20	
	1号車	鳥取88に1778	三菱	CD-I・A2	平成 6. 1. 26	消防庁補助
南部出張所	2号車	鳥取88に3129	三菱	CD-I・A2	平成 9. 1. 31	消防庁補助
	救急車	鳥取800さ3041	ニッサン	高規格車 4WD	平成15. 11. 17	消防庁補助
	広報車	鳥取88す 969	マツダ		平成 5. 6. 3	

所属	車 号	登 録 番 号	車 名	機 装	購入年月日	摘 要
伯耆出張所	1 号 車	鳥取88に2157	三菱	CD-I・A2	平成 7. 2. 10	消防庁補助
	タンク車	鳥取800は 292	日野	I-A	平成18. 2. 28	消防庁補助
	救 急 車	鳥取800さ3508	トヨタ	高規格車 4WD	平成16. 11. 29	消防庁補助
	広 報 車	鳥取88す 968	マツダ		平成 5. 6. 3	
境港	1 号 車	鳥取800さ3555	日野	CD-I・A2	平成17. 1. 12	消防庁補助
	2 号 車	鳥取88に4493	いすゞ	CD-I・A2	平成11. 1. 25	消防庁補助
	タンク車	鳥取800さ 656	日野	I-B	平成12. 1. 24	消防庁補助
	救助工作車	鳥取800は 51	日野	II型	平成12. 2. 21	防衛庁補助
	ボートトレーラ	鳥取800る 15	イージーホーラー		平成12. 2. 21	防衛庁補助
	化学1号車	鳥取88は107	日野	IV型・A1	平成13. 2. 28	防衛庁補助
	化学2号車	鳥取88に 914	三菱	I型・A1	平成 3. 4. 24	寄贈 損害保険協会
	梯子車	鳥取88ゆ 689	日野	25m級	平成 8. 12. 19	防衛庁補助
	救急1号車	鳥取800さ5432	ニッサン	高規格車 4WD	平成22. 3. 26	防衛省補助
	救急2号車	鳥取800さ4415	ニッサン	高規格車4WD	平成19. 3. 27	防衛庁補助
消防署	指揮車	鳥取800さ2633	ニッサン		平成15. 3. 20	
	境港広報車	鳥取880あ95	ダイハツ		平成18. 8. 7	
	境港査察車	鳥取80あ653	ダイハツ		平成 8. 12. 25	
	弓浜出張所	1 号 車	鳥取800さ5713	日野	CD-I・A2	平成23. 2. 25
2 号 車		鳥取88に1777	三菱	CD-I・A2	平成 6. 1. 26	消防庁補助
救 急 車		鳥取800さ3595	トヨタ	高規格車 4WD	平成17. 2. 23	防衛庁補助
広 報 車		鳥取88す1119	マツダ		平成 6. 5. 25	
大山消防署	1 号 車	鳥取88に2580	三菱	CD-I・A2	平成 8. 1. 22	消防庁補助
	タンク車	鳥取800は 337	日野	CD-I・A2	平成19. 2. 23	
	救 急 車	鳥取800さ4747	ニッサン	高規格車 4WD	平成20. 1. 31	
	指揮車	鳥取800さ3175	ニッサン		平成16. 3. 17	
	広 報 車	鳥取800さ2988	ニッサン		平成15. 10. 15	
中山出張所	1 号 車	鳥取800さ5714	日野	CD-I・A2	平成23. 2. 25	消防庁補助
	2 号 車	鳥取88に3638	三菱	CD-I・A2	平成 9. 11. 7	消防庁補助
	救 急 車	鳥取800さ1844	ニッサン	高規格車 4WD	平成13. 11. 19	消防庁補助
	広 報 車	鳥取80あ1132	ダイハツ		平成16. 3. 5	
江府消防署	1 号 車	鳥取88に2579	三菱	CD-I・A2	平成 8. 1. 22	消防庁補助
	タンク車	鳥取88に3633	日野	I-B	平成 9. 11. 7	消防庁補助
	救助工作車	鳥取800さ2568	日野	II型	平成15. 3. 20	消防庁補助
	救 急 車	鳥取800さ5350	トヨタ	高規格車 4WD	平成22. 1. 26	消防庁補助
	指揮車	鳥取800さ3174	ニッサン		平成16. 3. 17	
	江府査察車	鳥取40ほ2022	三菱		平成 3. 2. 22	
生山出張所	1 号 車	鳥取88に2668	三菱	CD-I・A2	平成 8. 3. 26	消防庁補助
	2 号 車	鳥取800さ5044	日野	CD-I・A2	平成21. 1. 28	消防庁補助
	救 急 車	鳥取800さ5708	トヨタ	高規格車 4WD	平成23. 2. 26	消防庁補助
	広 報 車	鳥取80あ1133	ダイハツ		平成16. 3. 5	

消防ポンプ自動車18 タンク車6 救助工作車3 化学車3 梯子車3

救急車14 指揮車5 広報車13 査察車8 作業車1

支援車1 資機材搬送車1 連絡車1 ボートトレーラー1

総数78台

(5) 救急・救助

平成23年4月1日現在

(5-1) 救急隊配置場所

配置場所	車両区分	隊数
米子消防署	高規格救急車	2隊
皆生出張所	高規格救急車	1隊
南部出張所	高規格救急車	1隊
伯耆出張所	高規格救急車	1隊
境港消防署	高規格救急車	2隊
弓浜出張所	高規格救急車	1隊
大山消防署	高規格救急車	1隊
中山出張所	高規格救急車	1隊
江府消防署	高規格救急車	1隊
生山出張所	高規格救急車	1隊

(5-2)高規格救急車積載一覧

積載器具名	数量	積載器具名	数量
心電図伝送装置	1式	ま くら	1
半自動式除細動器	1式	ドーナツ型まくら	1
ベッドサイドモニター	1式	感染防止用資材セット	3式
自動式人工呼吸器	1式	舌 庄 子	3
輸液ポンプ	1式	舌 鉗 子	1
心電計	1式	マギール鉗子	大・小 各 1
全身固定用具	1式	ステイッフネック	大・中・小 各 1
在宅医療セット	1式	万能ハサミ	2
頭部固定具	1式	フェイスマスク	大・中・小 各 2
新生児用資器材	1式	輸液セット	三方活栓付チューブ 4
携帯電話	1	乳酸リンゲル液	5
携帯無線機	1	留置針	18・20・22 適量
電動吸引器	1式	経口エアウェイ	大・中・小・極小 各 1
バキュームスプリント	1式	経鼻エアウェイ	6・7・8・9 適量
マジックギプスセット	1式	鼻カニューレ	1
バッグマスクセット	1式	クリーンネット	1
喉頭鏡セット	1式	洗面器	1
メインストレッチャー	1	尿器	1
スクープストレッチャー	1	開口器	1
サブストレッチャー	1	吸引カテーテル	適量
ユニオン担架	1	おはり箱	1
布担架	1	洗眼器	1
酸素ボンベ	10リットル	2	気管内挿管チューブ 4・5・7・8・9 適量
減圧弁	2	気管切開カニューレ	適量
酸素加湿流量計	二連	1	マスク 適量
血圧計	アネロイド・ハンド式	各 1	ピンセット 1
聴診器	3	3	スタイレット 4
温・冷蔵庫	1	1	プラスチックグローブ 適量
浮環	1	1	手術用手袋 適量
グライスマスター	1	1	ディスプレイ電極 心電計用 適量
万能斧	1	1	三角布 適量
レスキューン	1	1	ハイゼガーゼ 適量
バール	1	1	ケーパイン 適量
サーチライト	4	4	各種テープ 適量
水中めがね	2	2	紙マスク 適量
トリアージタッグ	適量	適量	消毒綿 適量
毛布	2	2	シーネ 大・中・小 各 1
コンピチューブ	適量	適量	砂のう 3
酸素マスク	適量	適量	固定用ベルト 2
救急シート	1	1	シリンジ 10・20・30mm 各 1
雨覆いシート	1	1	冷却パック 2
駆血帯	3	3	患者搬送記録・搬送証 適量
止血帯	ケース入	1	救命処置記録票 適量
体温計	1	1	住宅地図 1式

(5-3)救助隊配置場所

平成23年4月1日現在

配置場所	隊区分	車両区分
米子消防署	救助隊	化学消防自動車(Ⅱ型)
境港消防署	救助隊兼水難救助隊	救助工作車(Ⅱ型)
大山消防署	救助隊兼特殊災害隊	水槽付消防自動車
江府消防署	救助隊	救助工作車(Ⅱ型)
皆生出張所	高度救助隊	救助工作車(Ⅲ型)

(5-4)高度救助用資機材一覧

機材名	規格
画像探索機Ⅰ型	MVS29-7600(一式)
画像探索機Ⅱ型	スワットカム・モデル10(二式)
地中音響探知機	TPL310B(ワンボックスタイプ)(一式)
熱画像直視装置	EEV-P4438型(一式)
夜間用暗視装置	スタビスコープ S-1240(一式)
地震警報機	サクラ Qアラート マークⅡ(一式)

(5-5)救助工作車(Ⅲ型)積載一覧表

積載器具名		数量	積載器具名		数量
三連梯子	8.7m	1	酸素濃度測定器		1
かぎ付単梯子	3.1m	1	有毒ガス測定器		1
ワイヤー梯子	1.1m	1	可燃性ガス測定器		1
耐電衣	ヘルメット・手袋	5組	サバイバーリング	スーパカラビナ付	2
救助用三脚		1式	エスケープ		2
鉄筋カッター	充電式	1	マット型空気ジャッキ	60・40・24t他	1式
SOS		1式	小型マット型空気ジャッキ		1式
ストライカー		1	ツインプーリー	カラビナ	2
空気呼吸器	レスクマスク付	3	ワイドプーリー		4
予備ボンベ	8L	14	エイト環		5
チルホール	ワイヤー10・20m	1式	カラビナ		20
エアラインマスク		2式	スーパーカラビナ		10
発電機	EF2300	1	エッジプロテクター		2
ワイヤーロープ	10・7・5・3m	8	安全帯		10
滑車	5t	2	縛帯		2
〃	オタフク	1	ユマー		2
プライムカット		1式	張力計	3t	1
クイックカット		1式	送排風機	ダクト付	1式
ハンマードリル		1	コードリール	2.9m	1
エアーソー		1式	スローダン	3.0m	1
ホルマトロ	スプレッター	1	東消式担架		1
〃	カッター	1	バスケット担架	レスキューブライドル	1
〃	プランジャーラム	1	折りたたみ担架		2
〃	ホース・ホースリール	1	布担架		1
〃	エンジンポンプ	1	ユニオン担架		1
〃	フートポンプ	1	救命索発射銃	M-63	1式
〃	付属品	1式	削岩機		1式
ペダルカッター		1	巻きロープ		23
ダイヤモンドチェンソー	パワーユニット他	1式	Vスリング	3m・5m	6
スパカッター		1	都市型救助資機材	ザイル、プーリー他	1式
エンジンカッター		1	スリリングロープ		適量
チェンソー		1	捨綱		適量
アルミジャッキ		1	浮環		1
検電器		1	あて木		適量
ピンジャッキ		3	双眼鏡		1
拡声器		2	反射チョッキ		7
安全帯		6	サーチライト	ハロゲン	4
レスキューフォース		2	水中ライト		1
ゴーグル		7	水中メガネ	シュノーケル付	2
防塵マスク		6	つるはし		1
トップマン		1	なた		1
セーフティーボーイ		1	掛矢		1
ボルトクリッパー	絶縁タイプ	1	大ハンマー		1
パイプレンチ		1	大斧		1
サルベージシート		1	スコップ		2
投光器		1式	鋸		1
吸着剤		適量	とび口		2

※救助バッグ (小網×14・カラビナ×21・ワイドプーリー×2)

※救急用資機材 (救急箱×1・ディバッグ×2・梯状副子×適量)

(6)通信施設

指令施設

指令台	3式	各台は、指令用ディスプレイ、 地図用ディスプレイ、 支援情報ディスプレイを装備
指揮台	1式	
無線統制台	1式	
署所端末装置	12式	
各種表示盤	1式	支援情報表示盤・車両運用表示盤
指令用ホストコンピューターシステム	1式	
発信地照会端末装置	1式	
携帯・IP電話等位置情報通知システム	1式	

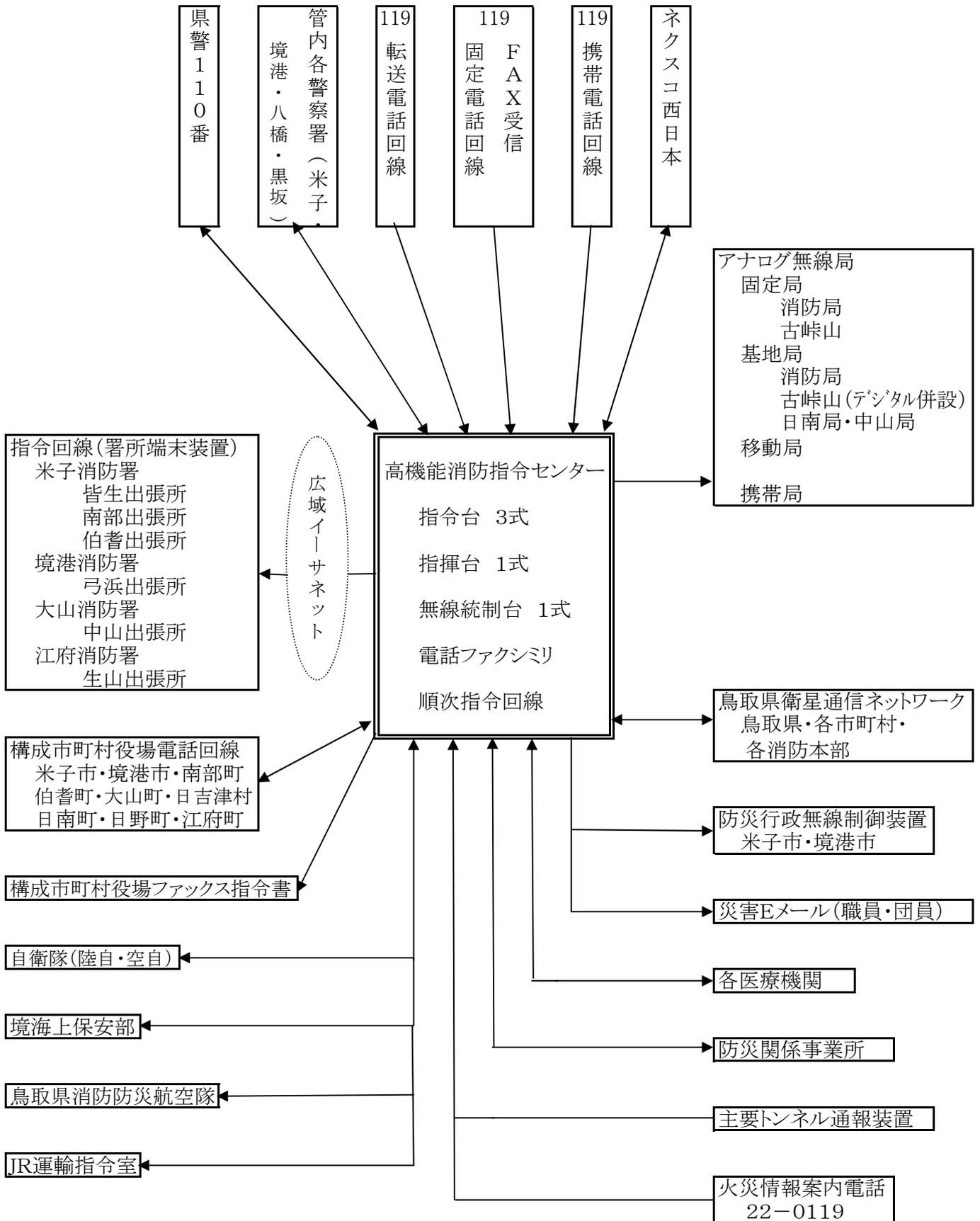
有線通信設備

119番専用回線	15回線	
固定電話回線 (ISDN回線)	12回線	IP電話重畳・FAX119
固定電話回線 (アナログ回線)	1回線	
携帯電話回線	2回線	
一般加入電話	23回線	
火災情報案内電話	10回線	
専用線		
署所指令専用線	10回線	
防災関係機関専用線	5回線	
広域イーサネット		
広域事務局・広域各施設		事務局・リサイクルプラザ・エコスラグセンター・米子浄化場 白浜浄化場・桜の苑
消防局・10署所		消防局・米子消防署・皆生(出)・南部(出)・伯耆(出)・境港消防 署・弓浜(出)・大山消防署・中山(出)・江府消防署・生山(出)

無線通信設備

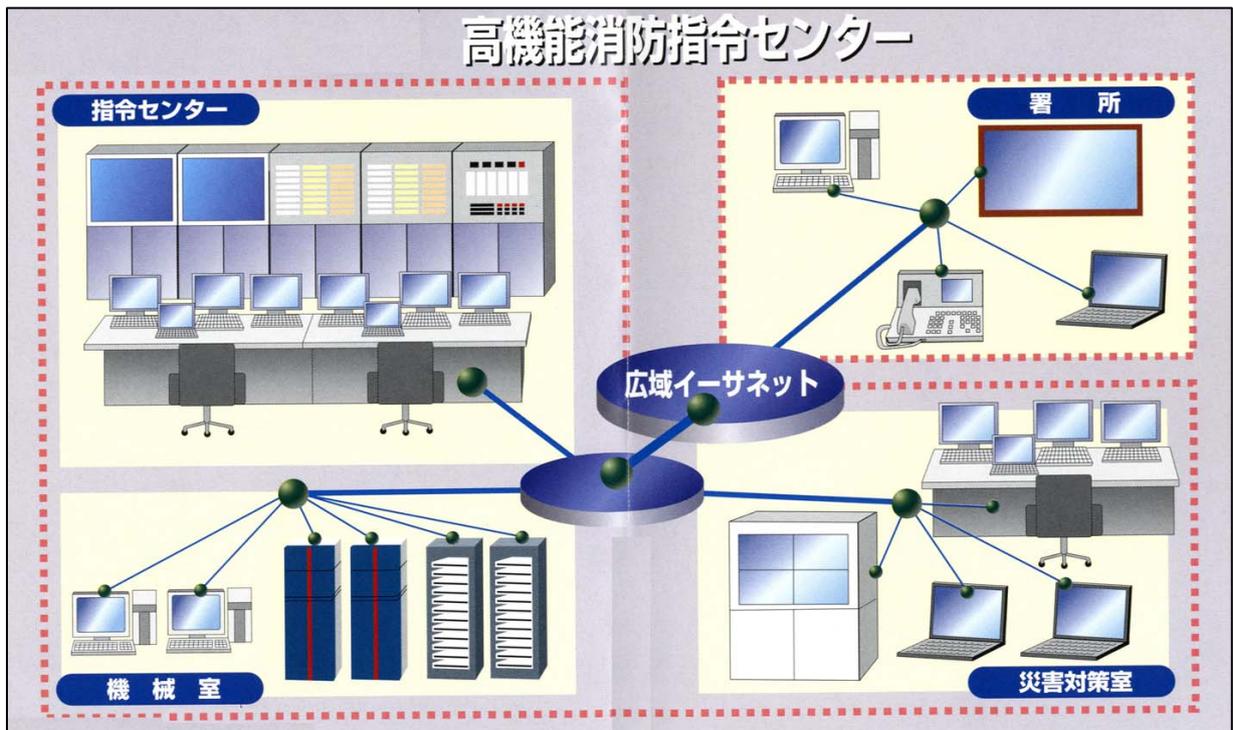
固定局	VSAT地球局	1局	鳥取県衛星通信ネットワーク
	多重		
	消防局	1局	
基地局	古峠山中継所	1局	
	アナログ		
	消防局	1局	
	古峠山中継所	1局	
陸上移動局	中山前進基地	1局	
	日南前進基地	1局	
	消防波	63局	アナログ
	救急波	29局	アナログ14局、デジタル15局
	携帯局		
1W	2局	デジタル携帯無線機	
5W	78局	内デジタル可搬型無線装置1局	
10W	4局	アナログ	

鳥取県西部消防局通信系統図





指令センター全景



高機能消防指令センター ネットワーク構成イメージ

予 防



予 防

(1) 防火対象物の現況

平成23年3月31日現在

種 別	項 別 (1)		(2)				(3)		(4)	(5)		(6)				(7)	(8)
	イ	ロ	イ	ロ	ハ	ニ	イ	ロ		イ	ロ	イ	ロ	ハ	ニ		
対 象 物 種 別	劇場、映画館、演芸場又は観覧場	公会堂又は集会場	キャバレー、カフェー、ナイトクラブ等	遊技場又はダンスホール	性風俗関連特殊営業店舗	カラオケボックス等	待合、料理店その他これらに類するもの	飲食店	百貨店、マーケット、店舗又は展示場	旅館、ホテル、宿泊所その他これらに類するもの	寄宿舎、下宿又は共同住宅	病院、診療所、又は助産所	老人短期入所施設、養護老人ホーム	老人デイサービスセンター・軽費老人ホーム	幼稚園、盲ろう学校又は養護学校	小中学校、高校、大学、各種学校等	図書館、博物館、美術館等
延べ面積150㎡以上のもの	19	139	1	26		8	3	197	427	234	1,933	192	68	199	26	349	30
防火管理者を選任すべきもの	19	120	1	23		7	3	185	276	137	229	60	45	121	17	97	15

種 別	項 別 (9)		(10)	(11)	(12)		(13)		(14)	(15)	(16)		16の2	16の3	(17)	(18)	
	イ	ロ			イ	ロ	イ	ロ			イ	ロ					
対 象 物 種 別	蒸気浴場、熱気浴場等	イに掲げる以外の公衆浴場	停車場、船舶又は航空機の発着場	神社、寺院、教会等	工場又は作業場	映画スタジオ又はテレビスタジオ	自動車車庫又は駐車場	飛行機又は回転翼航空機の格納庫	倉庫	前各号に該当しない事業所	特防の存する複合用途防火対象物	イに掲げる以外の複合用途防火対象物	地下街	準地下街	重要文化財・重要美術品等の建築物	延長五十メートル以上のアーケード	合 計
延べ面積150㎡以上のもの	17	6	5	149	1,150		121	5	957	1,044	453	97			25	11	7,891
防火管理者を選任すべきもの	6	2	2	87	88		1	13	201	282	20			1			2,058

(2) 各種届出事務処理の状況

平成22年4月1日～平成23年3月31日

項目	防火対象物使用開始届	消防計画	防火管理者選解任届	火災とまぎらわしい行為	催物開催	液化石油ガス等	少量危険物	指定可燃物	水素ガス	変・発・蓄電池等	ネオン管灯設備	炉・厨房・ボイラー等	煙火打上げ	罹災証明	消防用設備等点検結果報告書	防火対象物点検結果報告	消防法法令適合通知	喫煙等承認申請
受理数	172	446	358	201	1	57	89	19		73		36	67	85	1,909	123	19	131

(3) 予防査察件数

防火対象物	514
危険物施設	197

(4) 防火指導等状況

訓練指導 (防火訓練)	防火対象物	366
	自主防災組織	69
防火広報		307

(5) 建築同意の用途別事務処理状況

平成22年4月1日～平成23年3月31日

区 分		合 計	新築	増築	その他
1	イ	劇 場 ・ 映 画 館 等			
	ロ	公 会 堂 又 は 集 会 場	5	1	2
2	イ	キ ャ バ レ ー 等			
	ロ	遊 技 場 等	3	3	
	ハ	性 風 俗 関 連 特 殊 営 業 店 舗			
	ニ	カ ラ オ ケ ボ ッ ク ス 等			
3	イ	待 合 ・ 料 理 店 等			
	ロ	飲 食 店	6	5	1
4		百 貨 店 ・ 店 舗 等	13	10	3
5	イ	旅 館 ・ ホ テ ル	2	2	
	ロ	共 同 住 宅 ・ 寄 宿 舎	19	18	1
6	イ	病 院 ・ 診 療 所 等	14	7	7
	ロ	老 人 短 期 入 所 施 設 等	7	2	5
	ハ	老 人 デ ィ サ ー ビ ス 等	22	14	8
	ニ	幼 稚 園 ・ 養 護 学 校 等	2		2
7		学 校	29	17	11
8		図 書 館 ・ 美 術 館	1	1	
9	イ	蒸 気 ・ 熱 気 浴 場 等			
	ロ	イ 以 外 の 公 衆 浴 場			
10		車 両 の 停 車 場 等			
11		神 社 ・ 寺 院 等	2	1	1
12	イ	工 場 ・ 作 業 場	19	10	9
	ロ	テ レ ビ ス タ ジ オ 等			
13	イ	車 庫 ・ 駐 車 場	7	7	
	ロ	飛 行 機 の 格 納 庫			
14		倉 庫	24	15	9
15		前 各 号 に 該 当 し な い 事 業 所	35	26	7
16	イ	特 別 防 火 対 象 物 が 存 す る 複 合 用 途 防 火 対 象 物	7	5	2
	ロ	イ 以 外 の 複 合 用 途 防 火 対 象 物	1	1	
17		重 要 文 化 財			
18		50m 以 上 の ア ー ケード			
一 般 住 宅		専 用 住 宅	39	30	9
	併 用	店 舗 付 そ の 他	4	2	2
	長	屋 住 宅	62	62	
		昇 降 機			
		合 計	323	239	77

(6) 危険物製造所等の現況 (地区別施設件数)

平成23年3月31日現在

施設 市町村名	合 計	製 造 所	貯 蔵 所							取 扱 所			
			屋 内	屋 外 タン ク	屋 内 タン ク	地 下 タン ク	簡 易 タン ク	移 動 タン ク	屋 外	給 油	販 売	移 送	一 般
米 子 市	518	1	74	26	12	163		72	10	92	1		67
境 港 市	421		25	68	4	63		147	41	41		1	31
日 吉 津 村	12		1			2		1	1	7			
大 山 町	154		5	5	7	90		13	4	18			12
南 部 町	38		6	2	1	14		5		6			4
伯 耆 町	90		3	4	3	51		3		16			10
日 南 町	45		2	3	1	13		6	1	15			4
日 野 町	29		2	2	1	12		2	1	4			5
江 府 町	26		1			9		2		8			6
合 計	1,333	1	119	110	29	417		251	58	207	1	1	139

(7) 危険物製造所等の事務処理件数

施設 区分	合 計	製 造 所	貯 蔵 所							取 扱 所			
			屋 内	屋 外 タン ク	屋 内 タン ク	地 下 タン ク	簡 易 タン ク	移 動 タン ク	屋 外	給 油	販 売	移 送	一 般
設 置 許 可	10		1	1		1		4		1			2
変 更 許 可	64		1	12	1	4		16		26			4
設 置 完 成 検 査	10		1	1		1		4		1			2
変 更 完 成 検 査	65		1	13	1	4		16		26			4
仮 使 用 承 認	27			3						22			2
完 成 検 査 前 検 査	32												
仮 貯 蔵 ・ 仮 取 扱	75												
品 名 ・ 数 量 等 変 更 届	10												
譲 渡 引 渡 届	26												
設 置 者 等 変 更 届	33												
廃 止 届	66												
保 安 監 督 者 選 解 任 届	61												
使 用 休 止 再 開 届	7												

(8) 火薬類取締法関係

	区 分	件 数
許 可	譲 渡 許 可	4
	譲 受 許 可	0
	譲 受・消 費 許 可	30
	煙 火 消 費 許 可	40
	合 計	74

	区 分	件 数	
立 入 検 査	消費場所	採 石	24
		土 木	7
		その他	4
	煙 火 消 費 許 可	40	
	火 薬 庫 外 貯 蔵 場 所	8	
	合 計	83	

(9) 液化石油ガス法関係

処 理 内 容	件 数
液 化 石 油 ガ ス 設 備 工 事 届 受 理	6

火災概況



I 火災概況

(平成22年1月～12月)

1 火災状況

(1) 火災件数

平成22年中の火災件数は76件で、前年に比べ24件少なく、西部広域消防発足以来最も少ない火災件数となっています。特に、その他火災の件数が前年の34件から17件に半減しており、この要因としては3月から5月にかけて、雨の量が平年より相当多かったため、春先に多発する草火災が少なかったことが挙げられます。

(別表I-1、別表I-5、別図I-1参照)

(2) 火災種別

種別ごとの構成比をみますと、建物火災が全体の64.5%を占め、次いでその他火災22.4%、車両火災7.9%、林野火災3.9%の順となっています。

(別表I-1、別図I-2参照)

(3) 月別・時間帯別

月別の火災件数をみますと、5月・8月が最も多く9件、次いで1月・7月が8件、4月・6月・9月の7件、2月の6件となっています。

種別ごとの火災発生状況をみますと、建物火災は1月に7件、その他火災は5月に5件と最も多く発生しています。林野火災は2月・8月・9月に1件ずつ発生しています。

時間帯別の建物火災件数をみますと、17時から18時の時間帯に最も多く6件、次いで3時から4時の時間帯に5件発生しています。

(別表I-2、別図I-3、別図I-4参照)

(4) 市町村別

市町村別の火災件数をみますと、米子市が最も多く35件、次いで大山町の15件、南部町の10件となっています。日南町では平成22年中、火災は発生していません。

(別表I-3、別図I-5参照)

(5) 損害額

損害額は187,017千円で、前年の190,082千円とほぼ同様です。

種別ごとでは、建物火災が184,933千円で全体の98.9%を、月別では4月の86,896千円が全体の46.5%を占めています。

(別表I-1、別表I-2参照)

2 出火原因

出火原因の第1位は「こんろ」で10件、次いで「放火(放火の疑い含む)」

で8件、「たき火」7件、「たばこ」6件の順となっています。

(別表 I - 4 参照)

3 死者・負傷者

火災による死者は4人で、前年より2人増加しています。4人のうち3人は建物火災によるもので、いずれも夜中の2時から4時に発生しています。このうち1人は65歳以上の高齢者でした。死亡原因については、2人が逃げおくれ、2人がその他となっています。

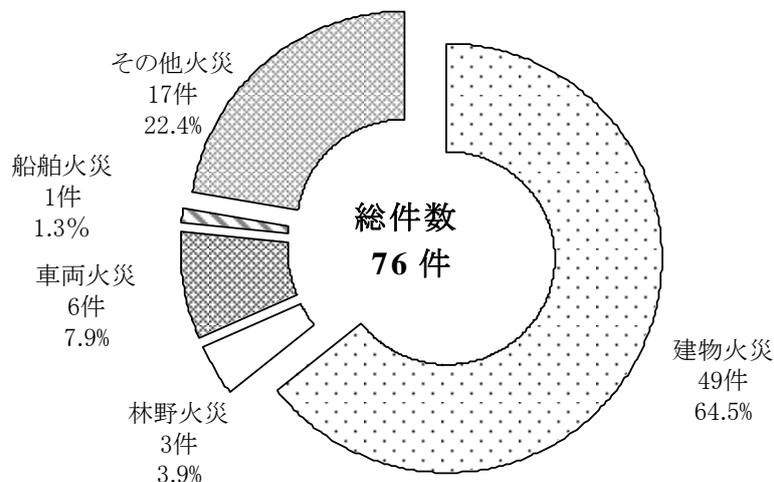
負傷者は前年同様15人で、このうち8人が65歳以上の高齢者の方でした。負傷者の発生状況については、6人が消火中、2人が避難中、1人が就寝中、6人がその他となっています。

(別表 I - 1、別図 I - 4、別図 I - 6、別図 I - 7 参照)

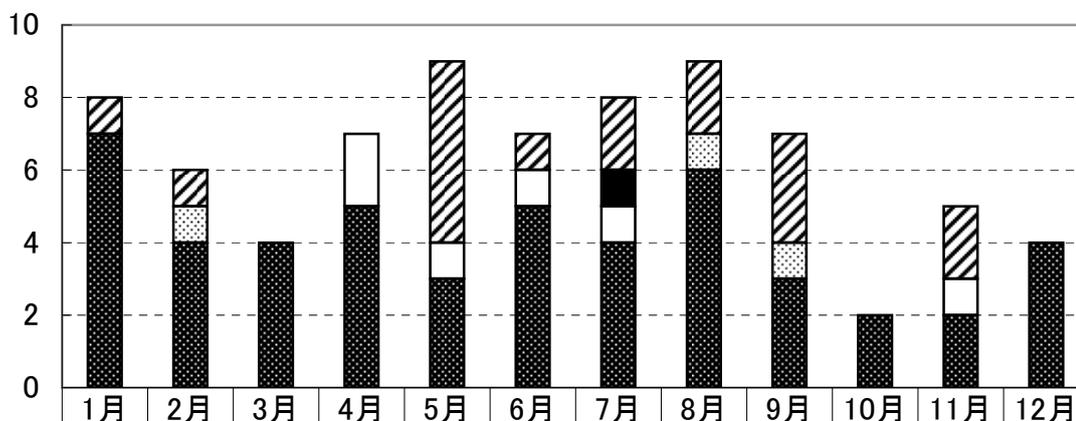
別図 I - 1 火災件数の推移



別図 I - 2 火災種別ごとの件数と構成比率

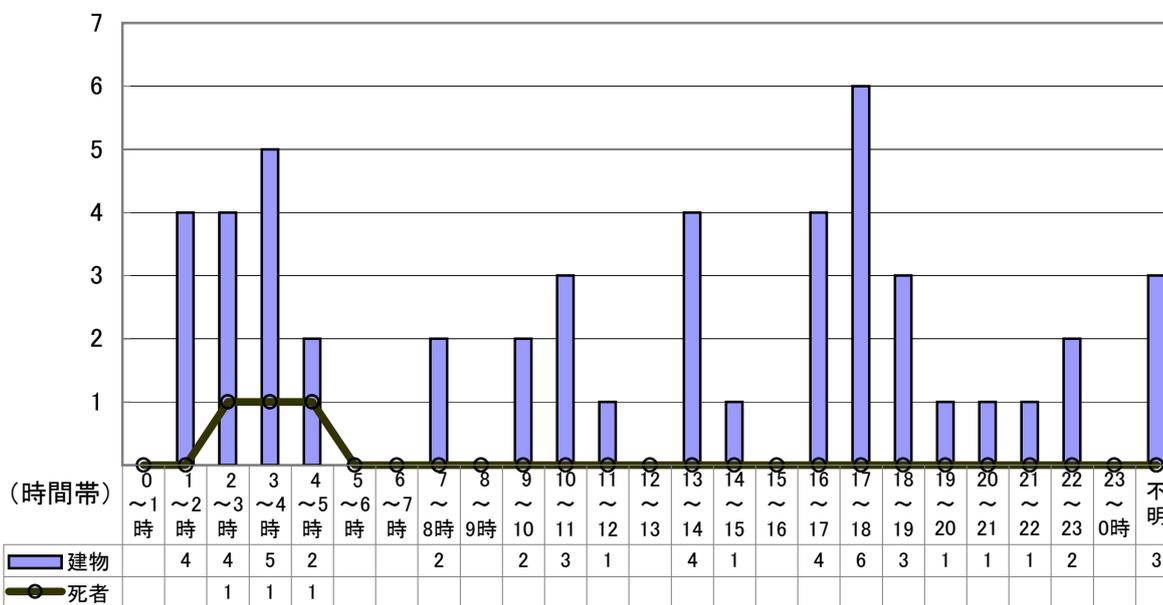


別図 I - 3 月別の火災件数

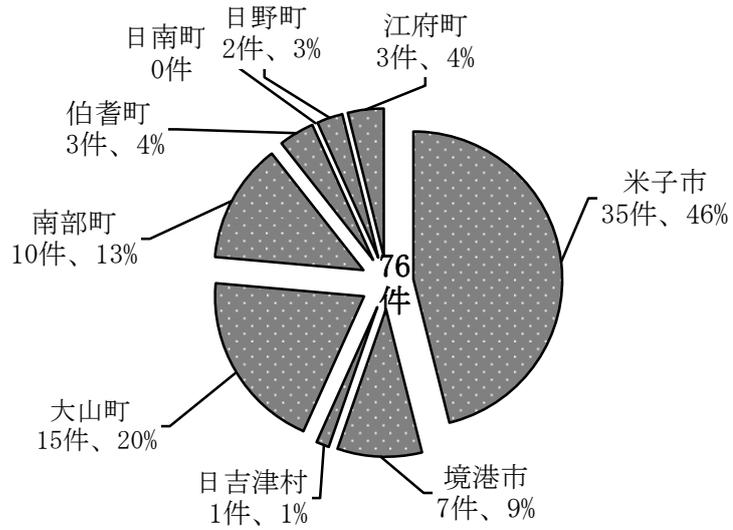


月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
合計	8	6	4	7	9	7	8	9	7	2	5	4
その他火災	1	1			5	1	2	2	3		2	
船舶							1					
車両火災				2	1	1	1				1	
林野火災		1						1	1			
建物火災	7	4	4	5	3	5	4	6	3	2	2	4

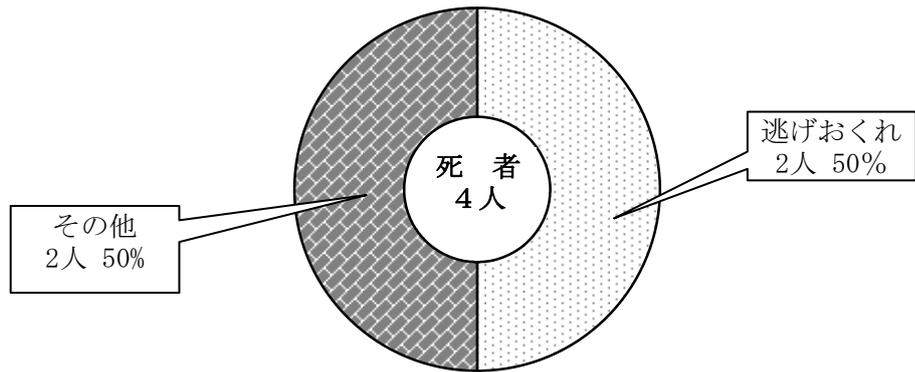
別図 I - 4 時間帯別建物火災発生件数及び建物火災での死者数



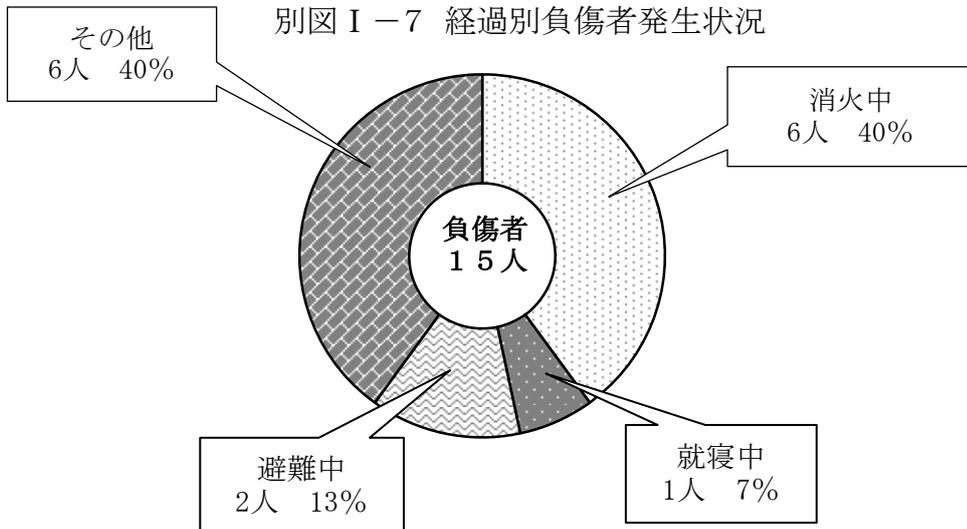
別図 I - 5 市町村別火災件数の構成比率



別図 I - 6 経過別死者発生状況



別図 I - 7 経過別負傷者発生状況



別表 I - 1 平成 2 2 年の火災の概況

区 分	平成 2 2 年 A	平成 2 1 年 B	増 減 C (A-B)	増 減 率 C/B (%)	
火災件数(件)	76 (100%)	100 (100%)	-24	-24.0%	
建物火災	49 (64.5%)	54 (54.0%)	-5	-9.3%	
林野火災	3 (3.9%)	4 (4.0%)	-1	-25.0%	
車両火災	6 (7.9%)	8 (8.0%)	-2	-25.0%	
船舶火災	1 (1.3%)	0 (0.0%)	1		
その他火災	17 (22.4%)	34 (34.0%)	-17	-50.0%	
焼損棟数(棟)	87 (100%)	76 (100%)	11	14.5%	
全焼	29 (33.3%)	21 (27.6%)	8	38.1%	
半焼	6 (6.9%)	3 (3.9%)	3	100.0%	
部分焼	28 (32.2%)	29 (38.2%)	-1	-3.4%	
ぼや	24 (27.6%)	23 (30.3%)	1	4.3%	
罹災世帯数(世帯)	37 (100%)	47 (100%)	-10	-21.3%	
全損	14 (37.8%)	12 (25.5%)	2	16.7%	
半損	1 (2.7%)	3 (6.4%)	-2	-66.7%	
小損	22 (59.5%)	32 (68.1%)	-10	-31.3%	
罹災人員(人)	85	125	-40	-32.0%	
焼損面積	建物(m ²)	6,947	3,187	3,760	118.0%
	林野(a)	9	20	-11	-55.0%
損害額(千円)	187,017	190,082	-3,065	-1.6%	
建物火災	184,933	187,180	-2,247	-1.2%	
林野火災	18	286	-268	-93.7%	
車両火災	1,940	2,438	-498	-20.4%	
船舶火災	15	0	0		
その他火災	111	178	-67	-37.6%	
1件当り 損害額 (千円)	火災全体	2,461	1,901	560	29.5%
	建物火災	3,774	3,466	308	8.9%
1件当り 損害面積	建物(m ²)	142	59	83	140.2%
	林野(a)	3	5	-2	-40.0%
死者(人)	4	2	2	100.0%	
負傷者(人)	15	15	0	0.0%	
出火率(人口1万人当り)	3.12	4.15	-1.03	-24.8%	

備考 () 内は構成比を示す。なお、損害額については概数

別表 I - 2 月別火災発生状況

	合計		建物火災		林野火災		車両火災		船舶火災		その他火災			焼損棟数				り災世帯			死者	負傷者	30日以内死亡
	件数	損害額 (千円)	件数	損害額 (千円)	焼損面積 ㎡	件数	損害額 (千円)	焼損面積 a	件数	損害額 (千円)	件数	損害額 (千円)	件数	損害額 (千円)	合計	全	半	小	り	災			
1月	8	32,275	7	32,274	3440					1	1	14	4	3	7	3		4	16	1	8		
2月	6	7,311	4	7,296	425	1	15	7		1		4	1	1	2			3	5		1		
3月	4	3,513	4	3,513	199							6	2	4				2	5				
4月	7	86,896	5	85,137	1087			2	1,759			16	5	1	5	4			15				
5月	9	557	3	526	1		1	31		5		3		1	2			2	3		1		
6月	7	6,262	5	6,190	6			1	69			6	1	1	4			2	6				
7月	8	16,553	4	16,445	216			1	71	1	15	6	1	2	1	2	1	2	6	1	1		
8月	9	23,061	6	23,061	914	1				2		13	7	6				4	14		3		
9月	7	2,603	3	2,555	373	1	3	2				8	2	2	4			1	3		1		
10月	2	3,508	2	3,508	162							4	2	1	1	4		1	9		1		
11月	5	2,613	2	2,563	69			1	10			2	2		1	1		1					
12月	4	1,865	4	1,865	55							5	2	2	1			1	2		1		
合計	76	187,017	49	184,933	6947	3	18	9	1,940	1	15	87	29	6	28	24	1	22	85	4	15		0

別表 I - 3 市町村別火災状況

	火災件数						焼損面積		焼損棟数				り災世帯数			り災人員	死者	負傷者 30日以内死亡	損害額 (千円)				
	合計	建物	林野	車両	船舶	その他	床面積 ㎡	表面積 ㎡	合計	全	半	部分	ぼ	合計	全					半	小		
																						焼	焼
米子市	35	24	2	3	1	5	1,179	47	7	34	6	4	11	13	18	3	1	14	43	1	8	75,908	
境港市	7	4		1		2	3,186	3		6	3	2	1	7	4		3		16	1	1	16,466	
日吉津村	1					1																	
大山町	15	9				6	1,180	104		30	8	1	11	10	7	4	3	15	1	2		61,285	
南部町	10	7	1			2	278	1	2	9	6	1	2		3	2	1	8		2		4,107	
伯耆町	3	3					945			6	5	1								1		18,251	
日南町	0																						
日野町	2	1		1				1		1	1	1			1		1	2	1			763	
江府町	3	1		1		1	179			1	1				1	1		1		1		10,237	
合計	76	49	3	6	1	17	6,947	156	9	87	29	6	28	24	37	14	1	22	85	4	15	187,017	

別表 I - 4 出火原因別火災発生概況

原因別	出火件数							損害額 (千円)	死者負傷者	
	計	建物	林野	車両	船舶	航空機	その他	計	死者	負傷者
合計	76	49	3	6	1		17	187,017	4	15
たばこ	6	5					1	47,976		1
こんろ	10	10						5,137		4
かまど										
風呂かまど	1	1						406		1
炉										
焼却炉	1						1			
ストーブ	1	1						1		1
こたつ										
ボイラー	1	1						28		
煙突・煙道	1	1						1,270		
排気管										
電気機器	2	1		1				678		
電気装置										
電灯・電話等の配線	1	1						160		
内燃機関										
配線器具										
火あそび	1		1							
マッチ・ライター	1					1		15		
たき火	7	1	2				4	2,212		3
溶接機・切断機	1						1	40		
灯火	1	1						362		
衝突の火花										
取灰										
火入れ										
放火	2	2						5	1	
放火の疑い	6	5					1	30,166		
その他	16	9		1			6	12,782		
不明・調査中	17	10		4			3	85,778	3	5

別表I-5 過去5年間の市町村別火災件数

	平成22年				平成21年				平成20年				平成19年				平成18年														
	合 計	建 物	林 野	車 両	船 舶	そ の 他	合 計	建 物	林 野	車 両	船 舶	そ の 他	合 計	建 物	林 野	車 両	船 舶	そ の 他	合 計	建 物	林 野	車 両	船 舶	そ の 他							
米子市	35	24	2	3	1	5	54	28		4		22	47	30		9		8	56	37		5		14	59	50		4		5	
境港市	7	4		1		2	22	14			8	23	10				13		24	8		1		15	23	18		1		4	
日吉津村	1					1	0					0							0						2				1		1
大山町	15	9				6	12	7	1	1	3	12	6	2	1	3	9	5	2	1				1	11	6		3		2	
南部町	10	7	1			2	1	1				3	3						6	3	2	1		3	2		1				
伯耆町	3	3					3	2	1			7	3		3	1	6	4	1					4	2		1			1	
日南町	0						5	1	2	2		6	5	1					3	3				9	8					1	
日野町	2	1		1			0					0							4	3		1		1	1					1	
江府町	3	1		1		1	3	1	1		1	5	4	1					2	2				0							
合 計	76	49	3	6	1	17	100	54	4	8	34	103	61	3	14	25	110	65	5	9		31	112	86	1	11		14			

別表 I -6 過去10年間の火災発生状況

区分	合計		建物火災			林野火災			車両火災		船舶火災		その他火災				焼損棟数				罹災世帯				死者	負傷者
	件数	損害額 (千円)	件数	損害額 (千円)	焼損面積 ㎡	件数	損害額 (千円)	焼損面積 a	件数	損害額 (千円)	件数	損害額 (千円)	件数	損害額 (千円)	合計	全焼	半焼	部分焼	ぼや	合計	全損	半損	小損	罹災人員 (人)		
13年	120	232,096	63	200,616	3,416	5	5,207	199	21	21,315	1	4,500	30	458	88	26	7	29	26	55	13	5	37	195	6	11
14年	143	261,812	72	252,724	4,364	10	1,638	453	13	6,538			48	912	105	33	5	40	27	66	17	2	47	207	8	21
15年	111	145,855	73	143,834	3,875	2		6	14	1,588			22	433	99	23	11	37	28	62	17	10	35	191	9	23
16年	105	254,660	69	249,412	5,900	6	5	30	14	5,243			16		103	27	12	33	31	56	11	6	39	190	4	18
17年	129	360,219	82	349,437	8,124	5	563	136	17	9,689	1	200	24	330	160	55	19	38	48	101	39	13	49	267	10	19
18年	112	288,024	86	284,659	5,721	1			11	2,576			14	789	137	28	13	55	41	78	18	9	51	238	5	19
19年	110	92,913	65	89,856	2,305	5	427	48	9	2,324			31	306	74	17	6	23	28	33	7	5	21	91	6	14
20年	103	587,798	61	558,269	3,889	3	15	2	14	28,639			25	875	88	29	3	30	26	40	7		33	135	7	9
21年	100	190,100	54	187,180	3,187	4	286	20	8	2,438			34	178	76	21	3	29	23	47	12	3	32	125	2	15
22年	76	187,017	49	184,933	6,947	3	18	9	6	1,940	1	15	17	111	87	29	6	28	24	37	14	1	22	85	4	15

救急救助概況



II 救急概況

(平成22年1月～12月)

1 救急出動件数、救急搬送状況

平成22年中の救急出動件数は、前年に比べて554件増の8,975件、搬送人員は572人増の8,495人で、4年ぶりの増加となりました。
(別図Ⅱ-1、Ⅱ-2、Ⅱ-3参照)

2 市町村別救急活動状況

救急出動件数、救急搬送人員ともに増加しましたが江府町は減少しました。米子市は過去最多の件数となりました。
(別図Ⅱ-4参照)

3 傷病程度別搬送状況

傷病程度別の搬送人員では、中等症が4,193人(49.4%)で最も多く、次いで軽症が2,977人(35.0%)となっています。
(別図Ⅱ-5参照)

4 年齢別搬送状況

年齢別の搬送人員では、65歳以上の高齢者が4,856人(57.2%)と最も多くなっています。
(別図Ⅱ-6参照)

5 署所別救急活動状況

署所別では、米子消防署の出動件数及び搬送人員がそれぞれ3,169件(35.3%)、2,922人(34.4%)と最も多くなっています。
(別図Ⅱ-7参照)

6 月別救急活動状況

月別の出動件数と搬送人員では、8月がそれぞれ886件(9.9%)、833人(9.8%)で最も多く、続いて12月の838件(9.3%)、794人(9.3%)となっています。
(別図Ⅱ-8参照)

7 現場到着所要時間、収容所要時間

平均現場到着所要時間は7分27秒で前年より21秒の遅延、平均収容所要時間は34分36秒で前年より51秒遅延しました。
(別図Ⅱ-9、Ⅱ-10参照)

8 応急手当実施状況

心肺停止傷病者255人のうち、家族等により応急手当を受けた人は、131人(51%)でした。
(別図Ⅱ-11参照)

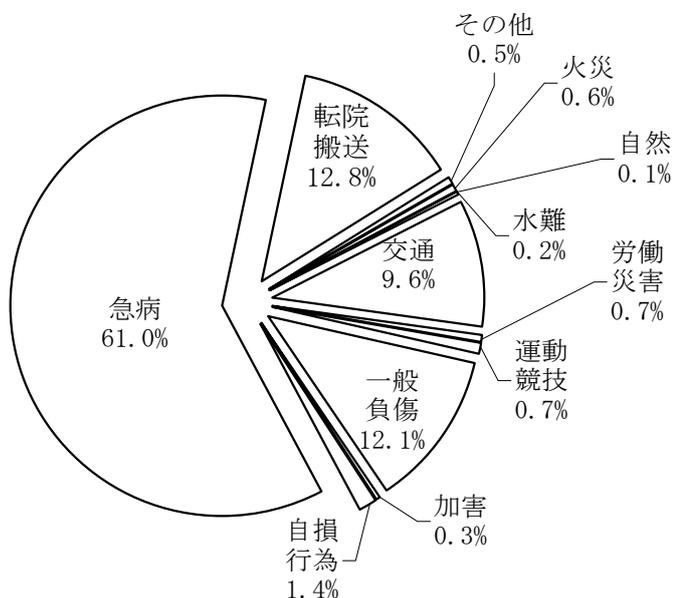
9 高度救命処置状況

心肺停止傷病者255人のうち187人が救急救命士による高度救命処置を受け、そのうち24人に回復が見られました。
(別図Ⅱ-12、Ⅱ-13参照)

10 救急講習件数の推移

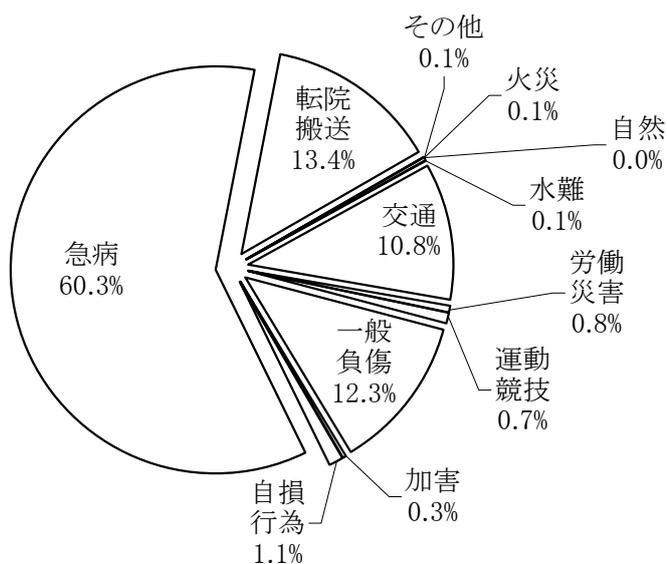
救急講習には、毎年約10,000の方が受講され、圏域住民の応急手当に対する意識の高さがうかがえます。
(別図Ⅱ-14、Ⅱ-15、別表Ⅱ-1参照)

別図Ⅱ-1 事故種別救急出動状況



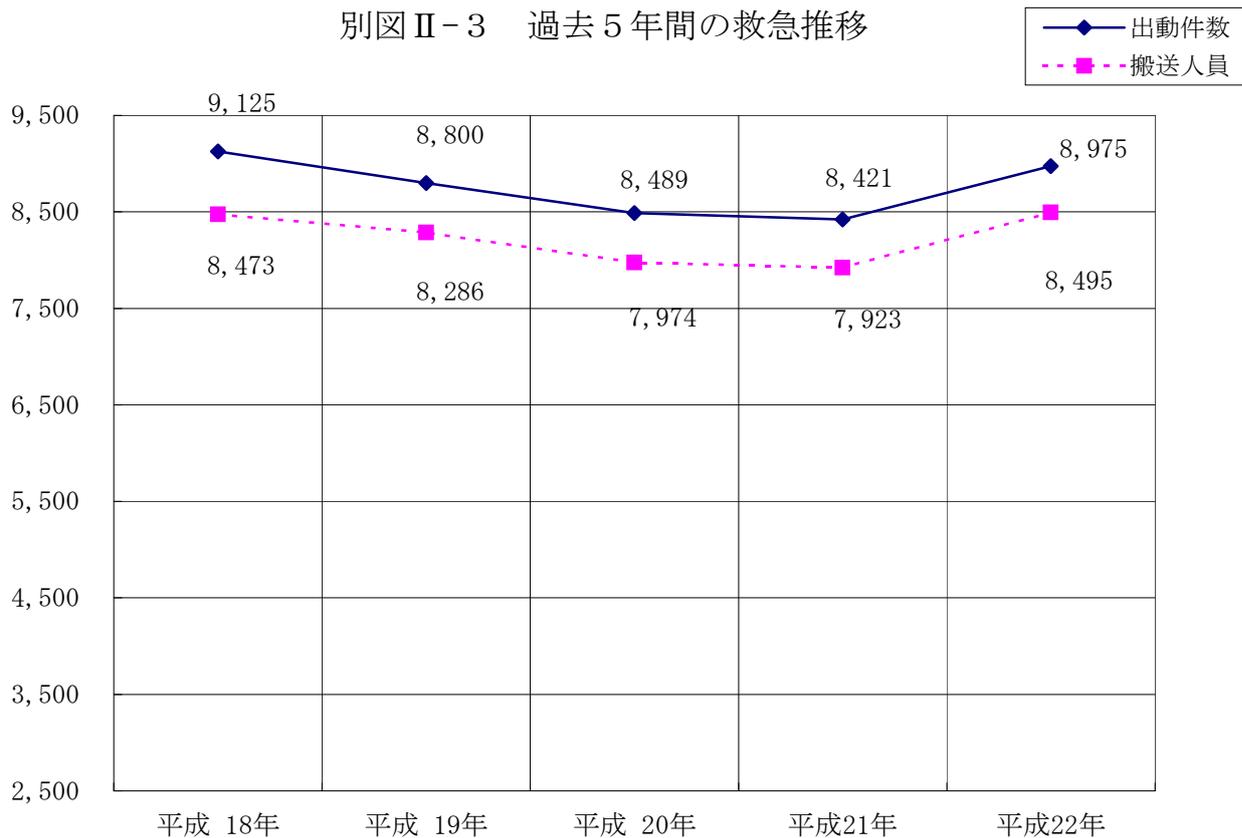
事故種別	火災	自然	水難	交通	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	転院搬送	その他	計
出動件数	52	5	18	861	65	60	1,084	26	129	5,478	1,148	49	8,975

別図Ⅱ-2 事故種別救急搬送状況

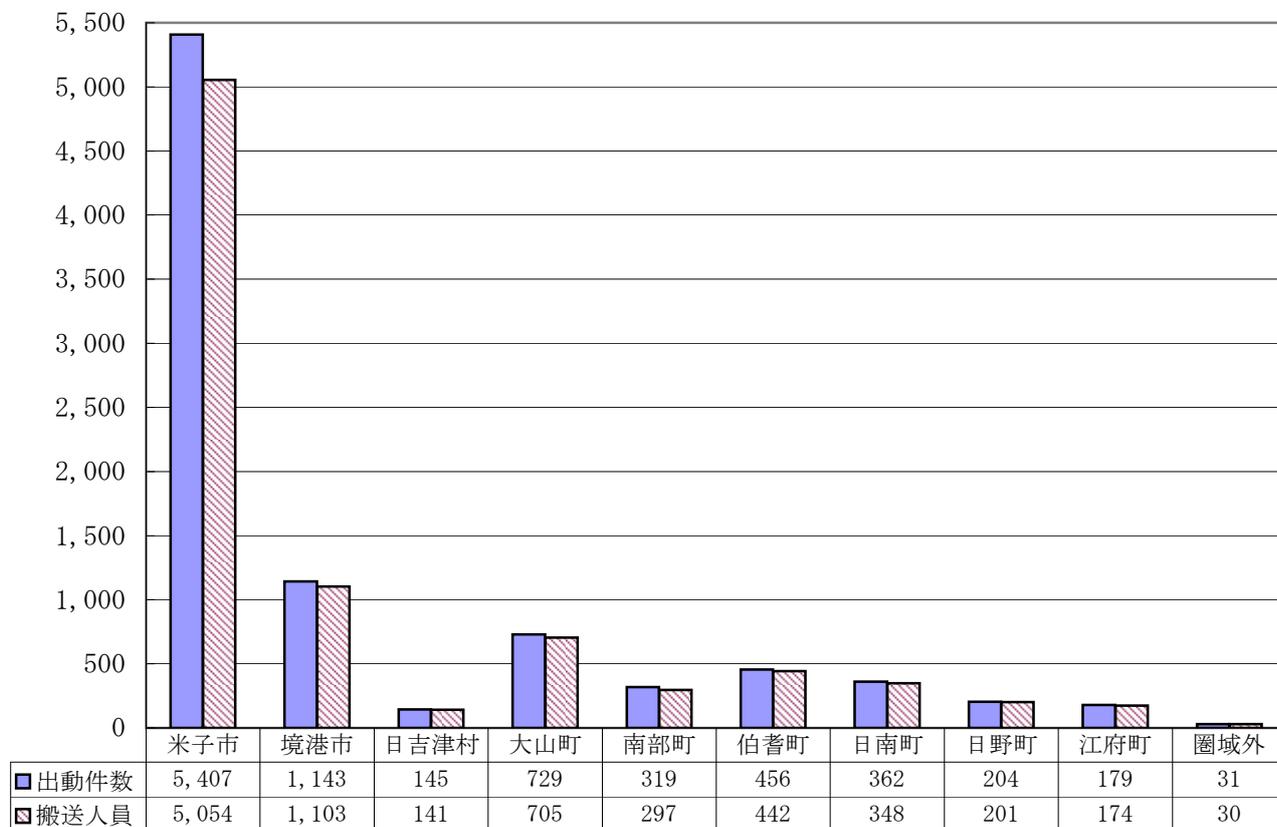


事故種別	火災	自然	水難	交通	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	転院搬送	その他	計
搬送人員	9	4	7	916	65	61	1,047	24	93	5,122	1,140	7	8,495

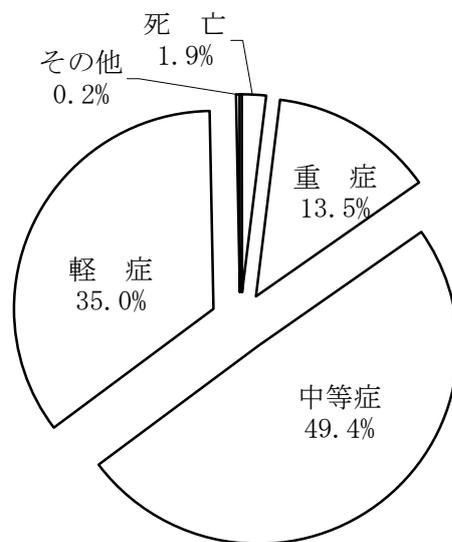
別図Ⅱ-3 過去5年間の救急推移



別図Ⅱ-4 市町村別救急活動状況

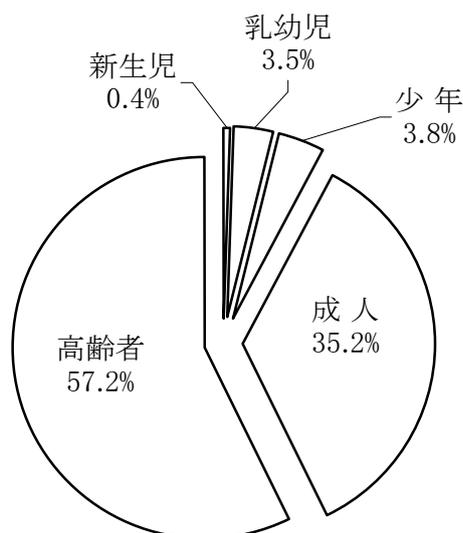


別図Ⅱ-5 傷病程度別搬送状況



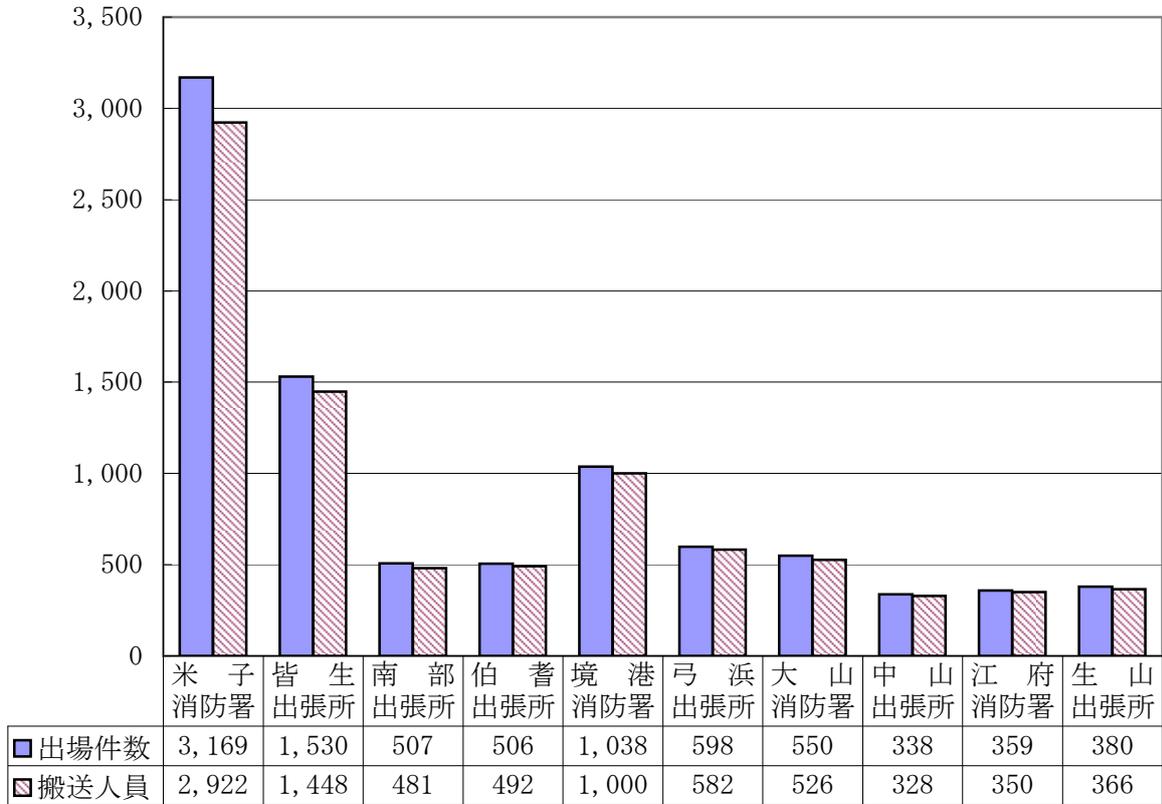
程 度	死 亡	重 症	中等症	軽 症	その他	合 計
搬送人員	161	1,146	4,193	2,977	18	8,495

別図Ⅱ-6 年齢別搬送状況

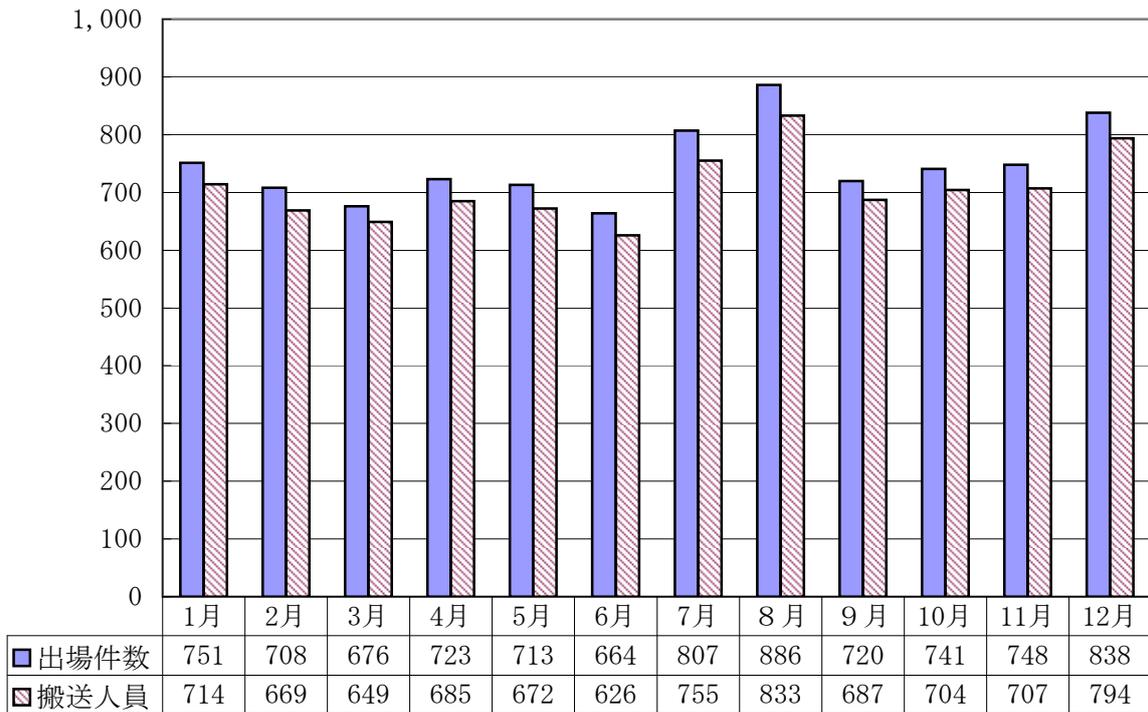


	新生児	乳幼児	少年	成人	高齢者	合 計
搬送人員	38	294	321	2,986	4,856	8,495

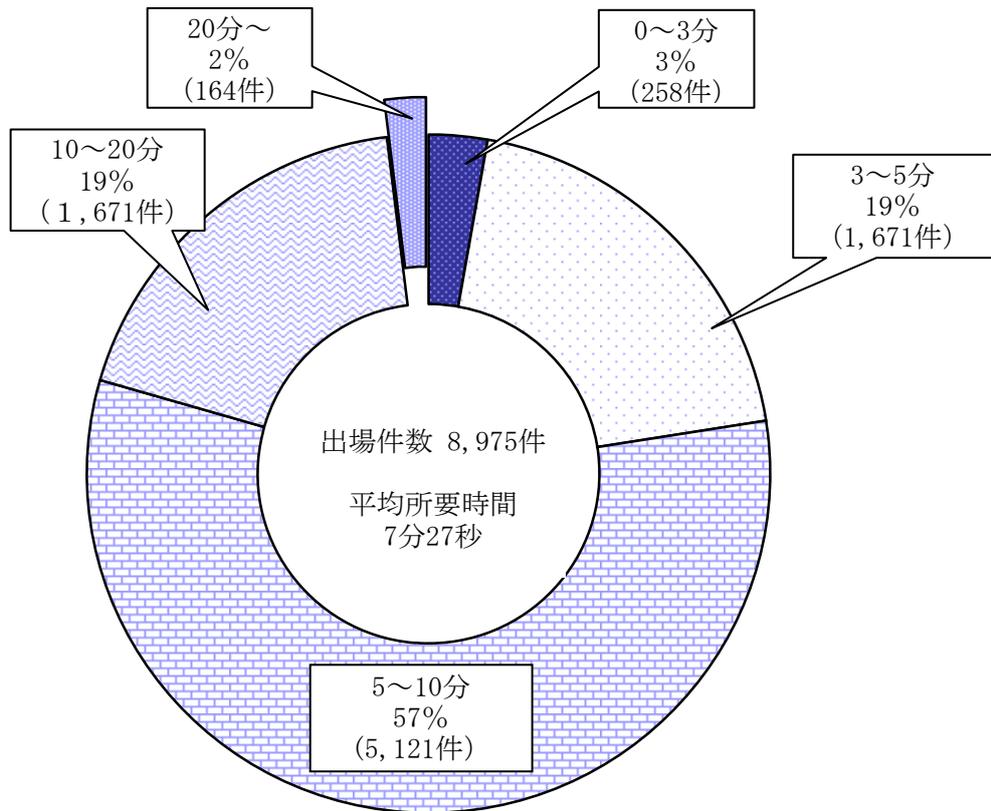
別図Ⅱ-7 署所別救急活動状況



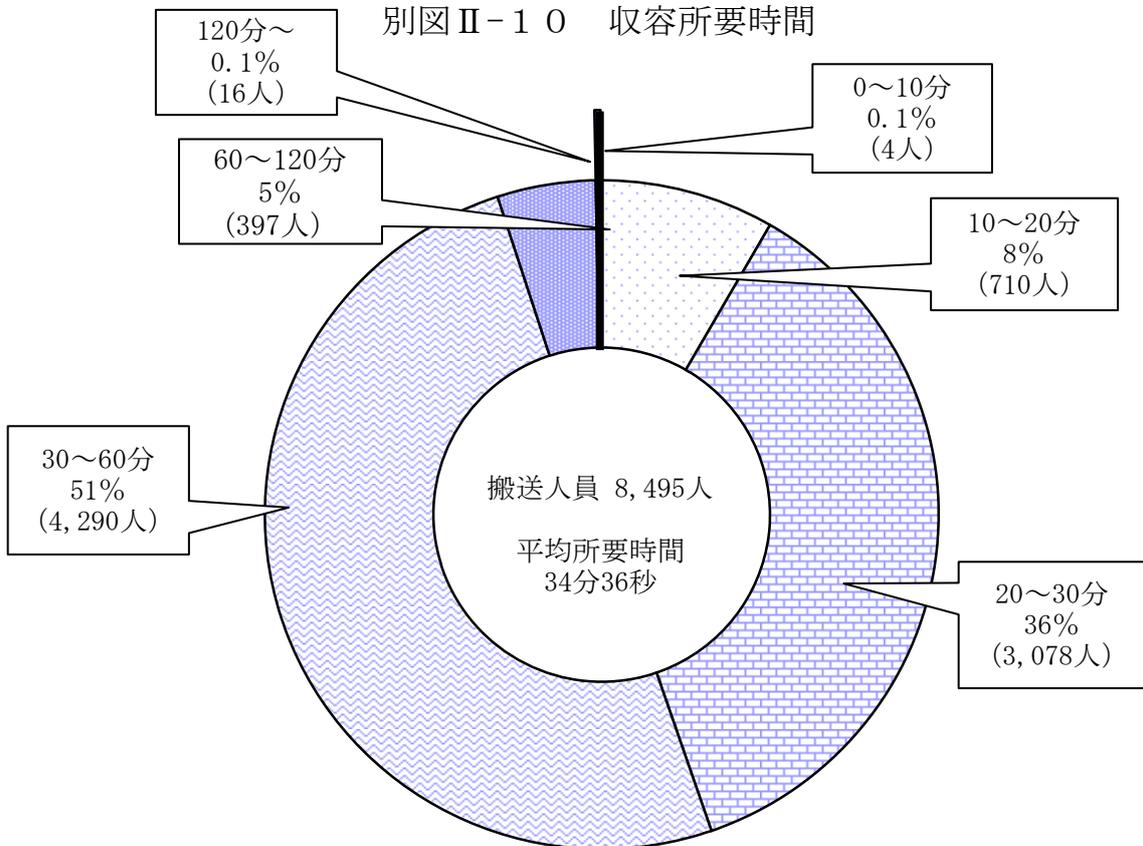
別図Ⅱ-8 月別救急活動状況



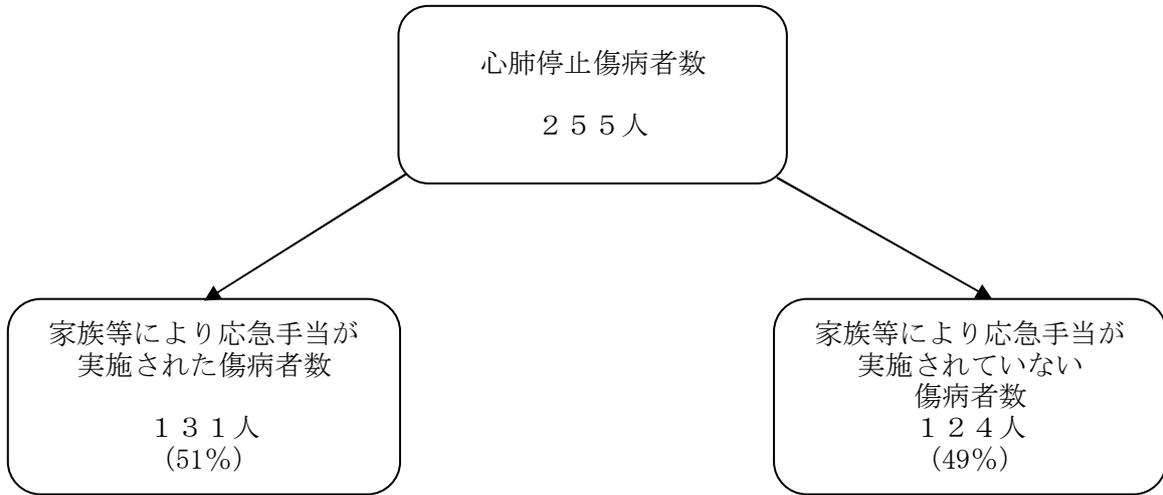
別図Ⅱ-9 現場到着所要時間



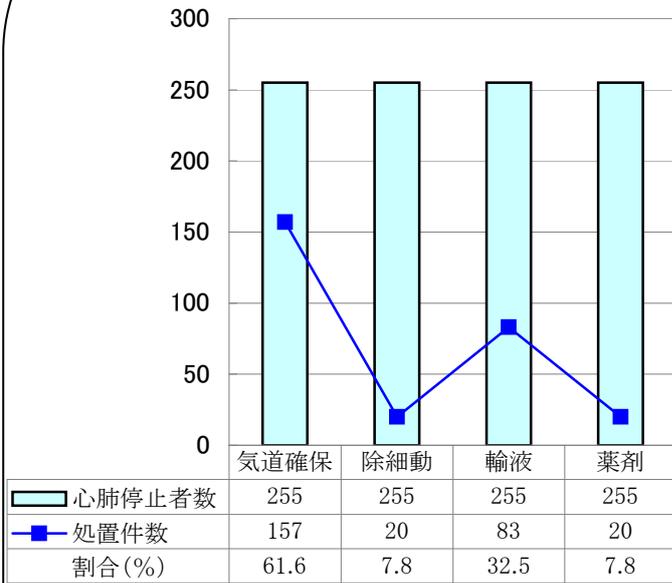
別図Ⅱ-10 収容所要時間



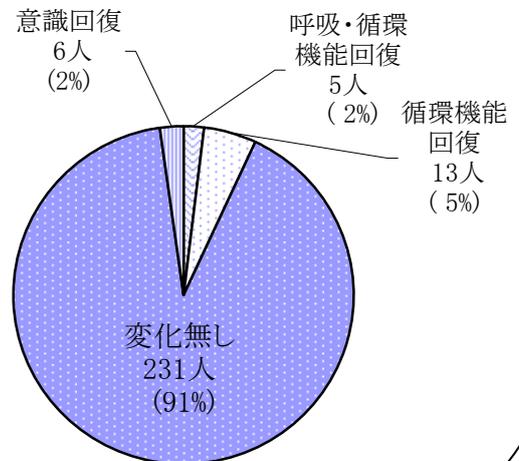
別図Ⅱ-1 1 応急手当実施状況



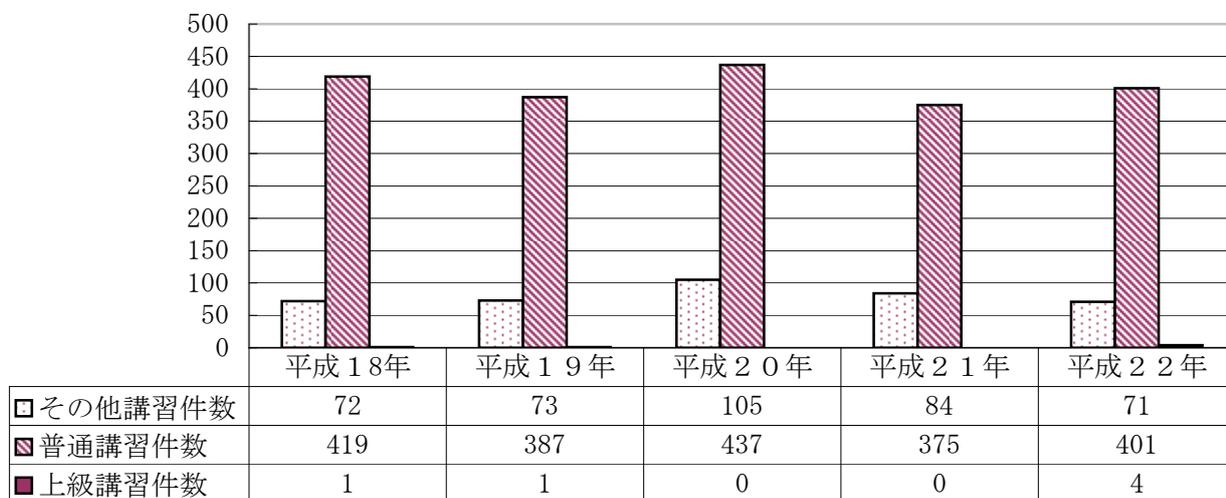
別図Ⅱ-12
高度救命処置状況



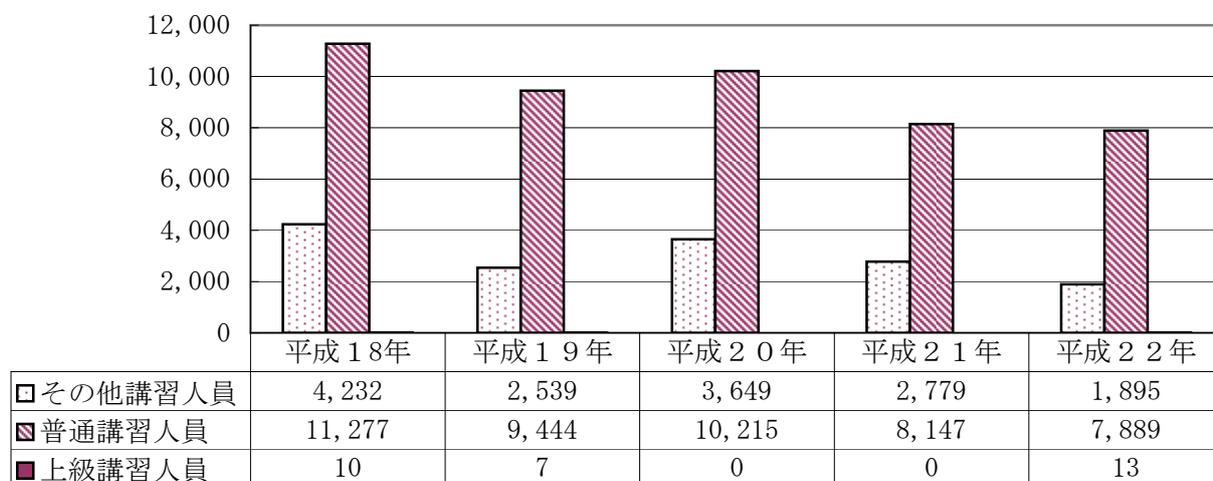
別図Ⅱ-1 3
医師引き継ぎ時の状況



別図Ⅱ－14 過去5年間の救急講習件数推移



別図Ⅱ－15 過去5年間の救急講習人員推移



別図Ⅱ－16 応急手当指導員・普及員の養成

	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年
応急手当指導員	0	11	16	0	0
応急手当普及員	12	0	21	15	0

別表Ⅱ－1 過去5年間の市町村別救急件数

		平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年
米子市	件数	5,257	5,155	4,925	5,019	5,407
	人員	4,825	4,820	4,563	4,681	5,054
境港市	件数	1,240	1,223	1,207	1,105	1,143
	人員	1,150	1,161	1,144	1,049	1,103
日吉津村	件数	123	121	130	120	145
	人員	121	113	123	111	141
大山町	件数	835	745	697	711	729
	人員	803	709	674	672	705
南部町	件数	345	323	299	304	319
	人員	329	306	288	290	297
伯耆町	件数	477	458	443	395	456
	人員	443	429	422	380	442
日南町	件数	378	317	365	351	362
	人員	361	302	349	343	348
日野町	件数	212	213	189	168	204
	人員	199	207	185	160	201
江府町	件数	216	203	202	225	179
	人員	204	196	197	217	174
圏域外	件数	42	42	32	23	31
	人員	38	43	29	20	30
合計	件数	9,125	8,800	8,489	8,421	8,975
	人員	8,473	8,286	7,974	7,923	8,495

Ⅲ 救助概況

(平成22年1月～12月)

1 事故種別救助出動状況

救助出動件数は155件あり、そのうち交通事故が66件(42.6%)、その他の事故が37件(23.9%)、火災が25件(16.1%)、水難事故が16件(10.3%)、建物等による事故が4件(2.6%)、機械による事故が4件(2.6%)等の順となっています。

(別図Ⅲ—1参照)

2 事故種別救助活動状況

救助活動件数は118件あり、そのうち交通事故が45件(38.1%)、その他の事故が28件(23.7%)、火災が25件(21.2%)、水難事故が12件(10.2%)、建物等による事故4件(3.4%)等の順となっています。

(別図Ⅲ—2参照)

3 事故種別救助人員状況

救助活動により救助された人員は111人あり、そのうち交通事故が56人(50.5%)と最も多く、次いでその他の事故が28人(25.2%)、水難事故が12人(10.8%)、火災等による事故が5人(4.5%)、建物等による事故4人(3.6%)、風水害等自然災害4人(3.6%)等となっています。

(別図Ⅲ—3参照)

4 管轄別救助活動状況

消防署の管轄別に出動件数を見ると、米子消防署が89件(57.4%)と最も多く、次いで大山消防署が25件(16.1%)、境港消防署が24件(15.5%)、江府消防署が17件(11.0%)の順となっています。

(別図Ⅲ—4参照)

5 市町村別救助活動状況

市町村別に救助活動状況を比較して見ると、出動件数、活動件数、救助人員ともに、米子市が最も多く出動件数68件(43.9%)、次いで大山町が24件(15.5%)、境港市が21件(13.5%)、伯耆町が7件(4.5%)、等の順となっており、他米子道、山陰道、管轄外へも出動しています。

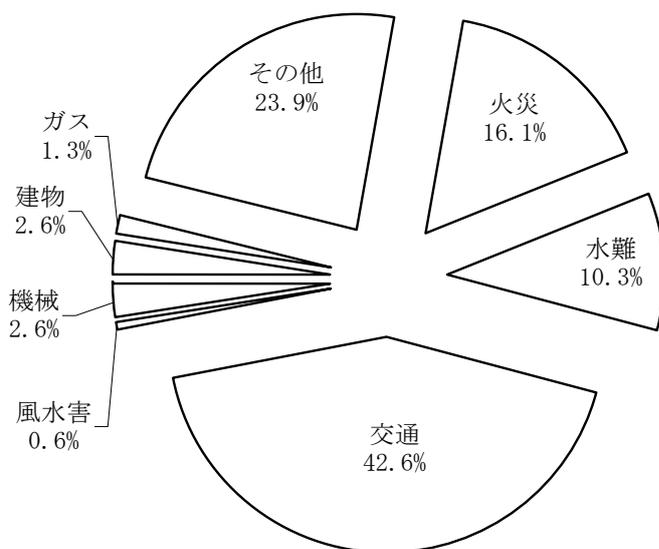
(別図Ⅲ—5参照)

6 月別救助活動状況

月別の救助出動件数を見ると、8月が20件(12.9%)と最も多く、次いで10月が18件(11.6%)、3月と4月が16件(10.3%)、12月が15件(9.7%)等の順となっています。

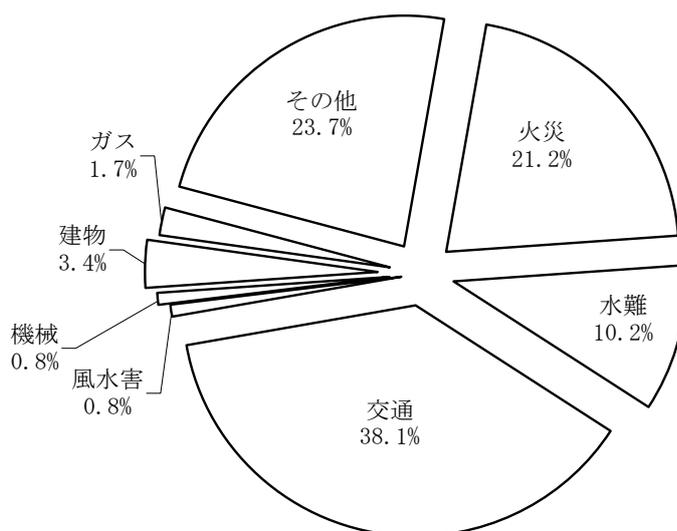
(別図Ⅲ—6参照)

別図Ⅲ-1 事故種別救助出動状況



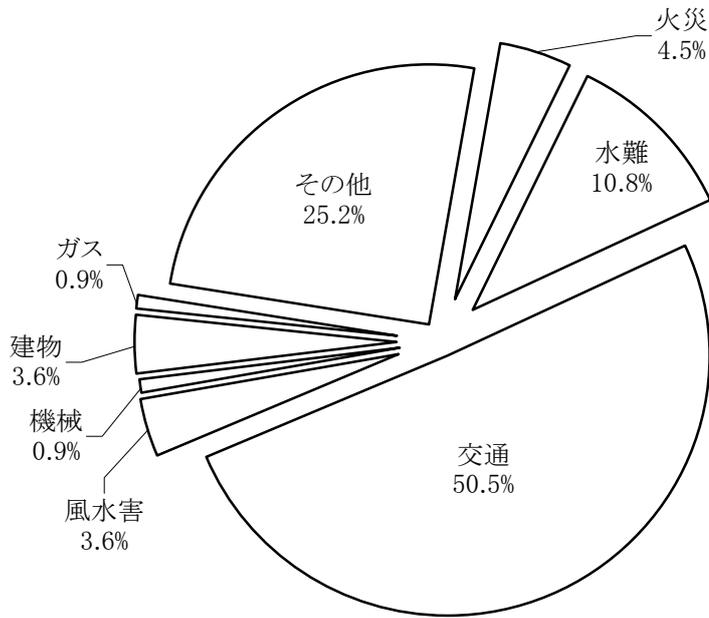
事故種別	火災	水難	交通	風水害	機械	建物	ガス	破裂	その他	計
出場件数	25	16	66	1	4	4	2	0	37	155

別図Ⅲ-2 事故種別救助活動状況



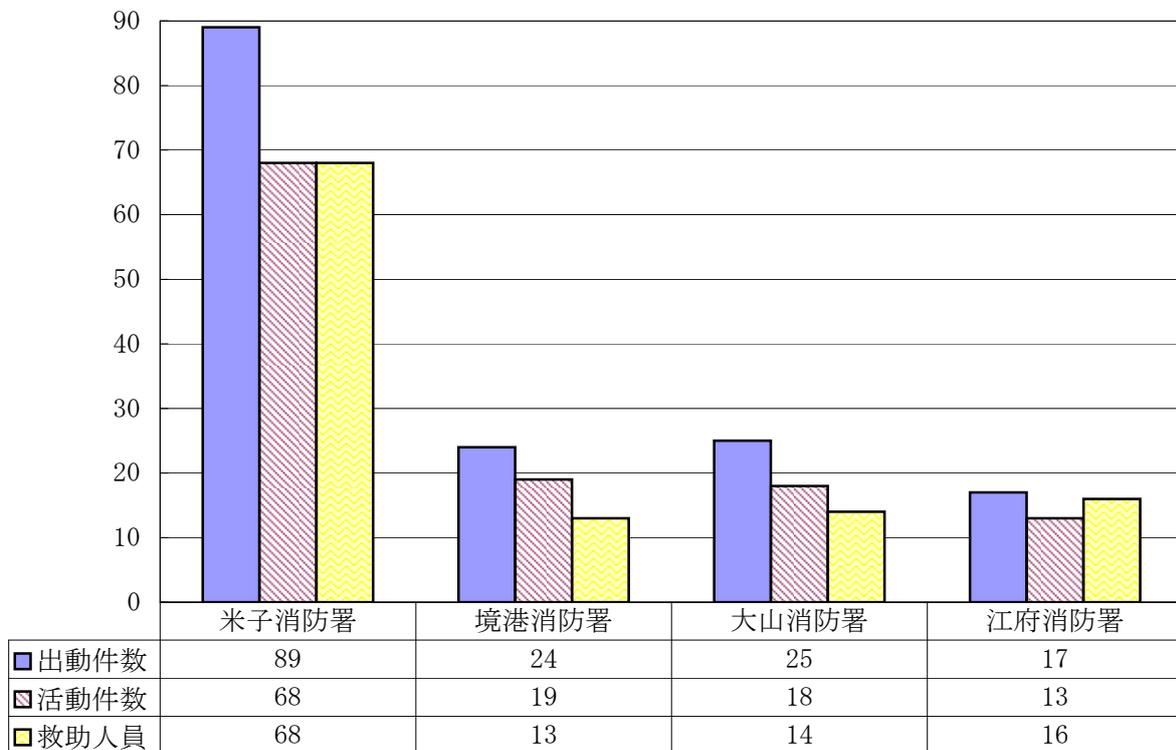
事故種別	火災	水難	交通	風水害	機械	建物	ガス	破裂	その他	計
活動件数	25	12	45	1	1	4	2	0	28	118

別図Ⅲ-3 事故種別救助人員状況

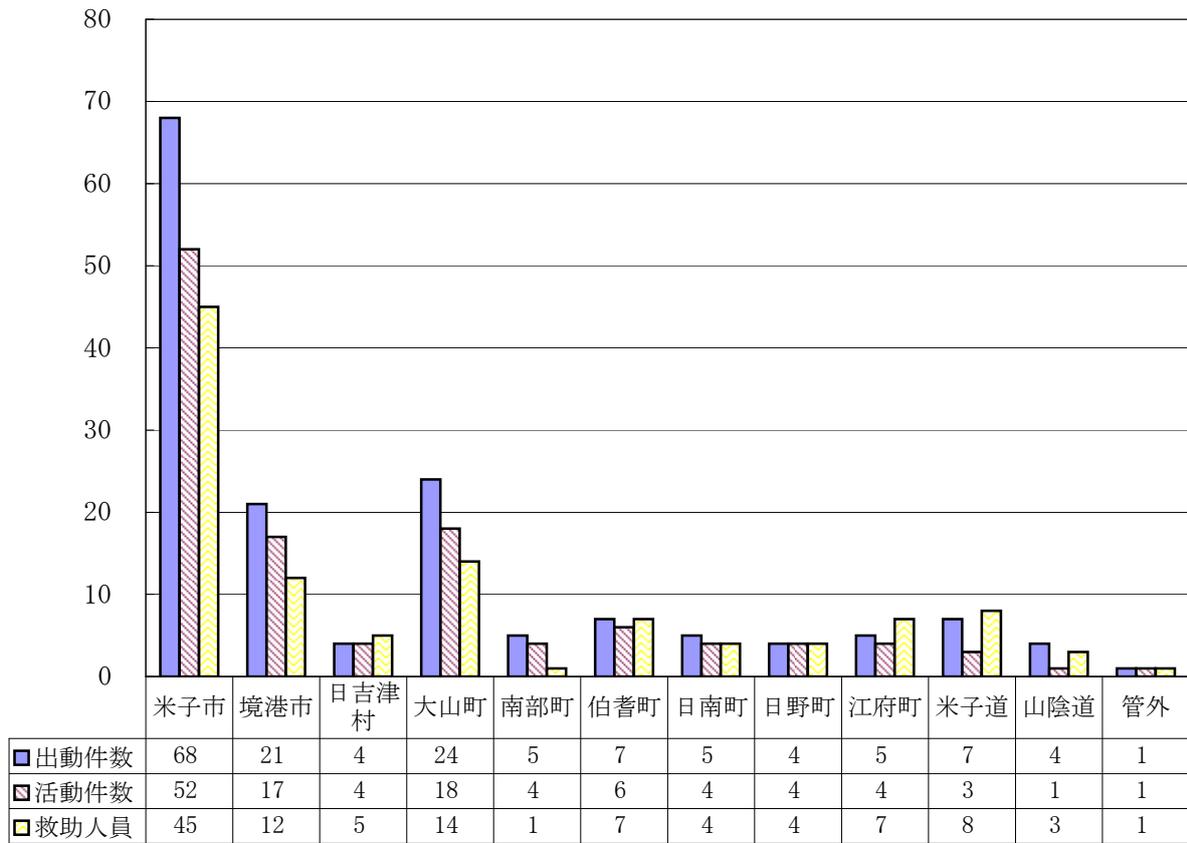


事故種別	火災	水難	交通	風水害	機械	建物	ガス	破裂	その他	計
救助人員	5	12	56	4	1	4	1	0	28	111

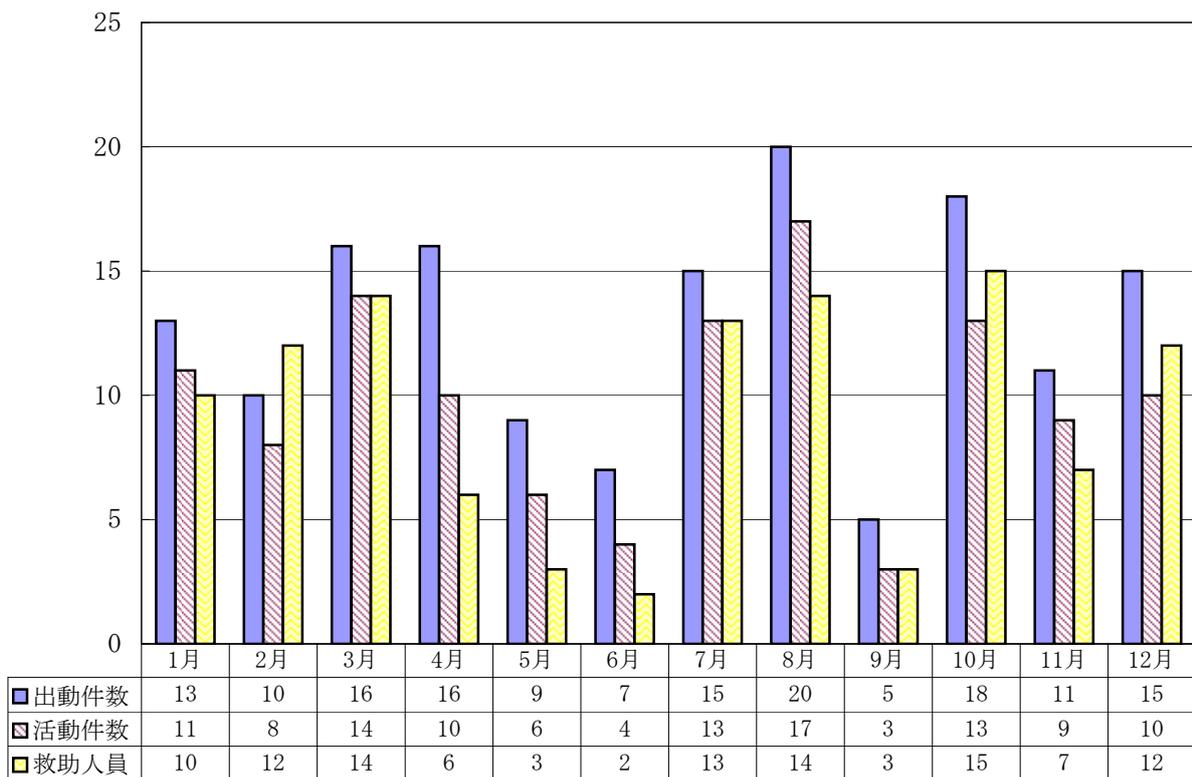
別図Ⅲ-4 管轄別救助活動状況



別図Ⅲ-5 市町村別救助活動状況



別図Ⅲ-6 月別救助活動状況



119番着信概況



IV. 119番着信概況

(平成22年1月～12月)

1 概況

平成22年中の119番通報は、総着信件数で12,722件でした。昨年に比べて913件(7.7%)多くなっています。1ヶ月平均では約1060件、1日平均では約35件の着信となります。通報内容としては、救急通報が最も多く8,663件(68.1%)、火災通報は159件(1.3%)でした。そのほかの通報としては、間違いが769件(6.0%)、通報訓練などの通報が1,662件(13.1%)、休日・夜間などに病院に関する問い合わせ等が1,206件(9.5%)となっており、悪戯と思われるものも107件(0.8%)ありました。

(別表Ⅲ-1、別図Ⅳ-1参照)

2 月別の着信状況

月別での平均着信件数は、約1,060件で、最も多かったのは12月の1,235件、最も少なかったのは2月の936件です。火災通報の月平均着信件数は約13.2件で、最も多かったのは1月の28件、最も少なかったのは10月の5件でした。救急通報の月平均着信件数は約721.9件で、最も多かったのは8月の854件、最も少なかったのは6月の658件でした。

(別表Ⅲ-2、別図Ⅳ-2参照)

3 電話種別による通報状況

17年7月よりIP電話からの119番通報ができるようになりました。平成22年は2,047件で年々増加しています。

災害別の通報状況として、固定電話(IP電話含む)と携帯電話の通報比率を災害種別ごとに見ますと、火災など多くの人の目に付きやすい場合のほか、交通事故などの屋外での事故の場合に、携帯電話の比率が高くなっています。

(別表Ⅲ-3、Ⅳ-4、別図Ⅳ-3、Ⅳ-5参照)

4 携帯電話からの着信状況

携帯電話からの119番通報は3,708件で、全着信件数の約29%でした。携帯電話で119番通報されますと、必ずしも電話をされた地区を管轄する消防本部に接続されるとは限りません。管轄地区以外からの通報は、その地区を管轄する消防本部に電話を転送し対応してもらいます。また逆に他の消防本部から転送受信することもあります。他の消防本部への転送処理件数は41件あり、松江市消防本部が28件と最も多く、次いで安来市消防

本部が10件となっています。

(別表Ⅲ-3、別表Ⅲ-5、別表Ⅲ-6、別図Ⅳ-3参照)

5 時間帯別119番通報の着信状況

時間帯別119番通報の着信件数は、活動時間帯（午前8時頃～午後9時）に大半を占めており、睡眠時間帯（午後10時～午前6時）では午前4時まで時間の経過とともに件数が少なくなっています。

(別図Ⅳ-4参照)

別表Ⅲ-1 119番着信件数の推移

	火災	救急	救助	警戒	問合せ	間違い	悪戯	訓練等	合計
平成18年	347	8,847	73	104	1,200	894	197	1,038	12,700
平成19年	222	8,488	71	106	1,063	927	100	1,186	12,163
平成20年	192	8,162	53	107	1,054	877	147	1,225	11,817
平成21年	193	8,126	62	102	1,110	766	139	1,311	11,809
平成22年	159	8,663	54	102	1,206	769	107	1,662	12,722

別表Ⅲ-2 月別119番着信状況

	火災	救急	救助	警戒	問合せ	間違い	悪戯	訓練等	合計
1月	28	717	3	8	113	57	14	63	1,003
2月	7	683	5	4	75	53	6	103	936
3月	11	670	8	10	79	63	10	154	1,005
4月	26	683	7	3	75	58	8	117	977
5月	12	688	1	2	109	72	12	159	1,055
6月	6	658	2	7	76	55	10	202	1,016
7月	12	780	6	10	101	68	6	134	1,117
8月	23	854	9	19	120	87	9	92	1,213
9月	11	693	0	11	89	69	11	114	998
10月	5	702	4	5	106	60	8	168	1,058
11月	10	720	2	9	97	53	5	213	1,109
12月	8	815	7	14	166	74	8	143	1,235
合計	159	8,663	54	102	1,206	769	107	1,662	12,722
月平均	13.2	721.9	4.5	8.5	100.5	64.1	8.9	138.5	1,060

別表Ⅲ－３ 電話種別による１１９番着信件数の推移

	固定電話からの 着信件数	携帯電話からの 着信件数	I P電 話	合 計
平成１８年	９，２５８	３，１３２	３１０	１２，７００
平成１９年	８，４８２	３，１１６	５６５	１２，１６３
平成２０年	７，７１６	３，１７４	９２７	１１，８１７
平成２１年	７，０９１	３，１８１	１，５３７	１１，８０９
平成２２年	６，９６７	３，７０８	２，０４７	１２，７２２

別表Ⅲ－４ 電話種別毎の通報状況

	火災	救急	救助	警戒	問合せ	間違い	悪戯	訓練等	合計
１１９固定	５１	４，８７８	１１	３２	４０８	２９５	４１	１，２５１	６，９６７
１１９携帯	９０	２，２３４	３９	５５	６４３	３６４	６０	２２３	３，７０８
１１９ I P	１８	１，５５１	４	１５	１５５	１１０	６	１８８	２，０４７
総合計	１５９	８，６６３	５４	１０２	１，２０６	７６９	１０７	１，６６２	１２，７２２

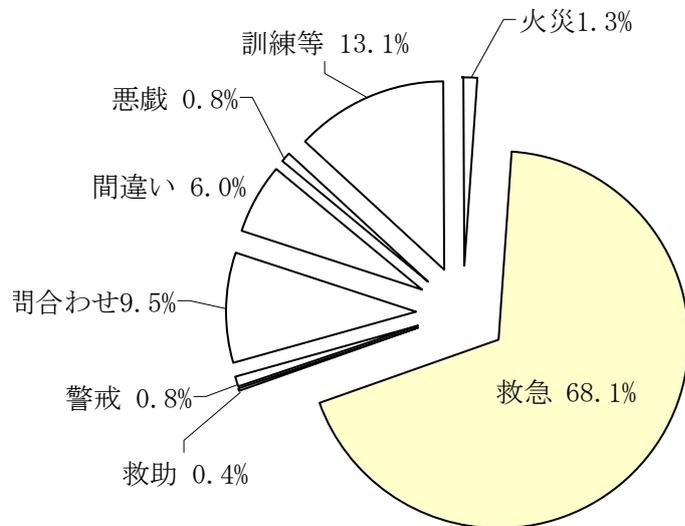
別表Ⅲ－５ 携帯電話からの着信状況

西部消防圏域内の災害などの着信件数			他の消防機関に 転送をした件数
直接通報を 受けた件数	他の消防機関から 転送受信した件数	総着信件数	４１
３，６８８	２０	３，７０８	

別表Ⅲ－6 携帯電話の消防機関別転送状況

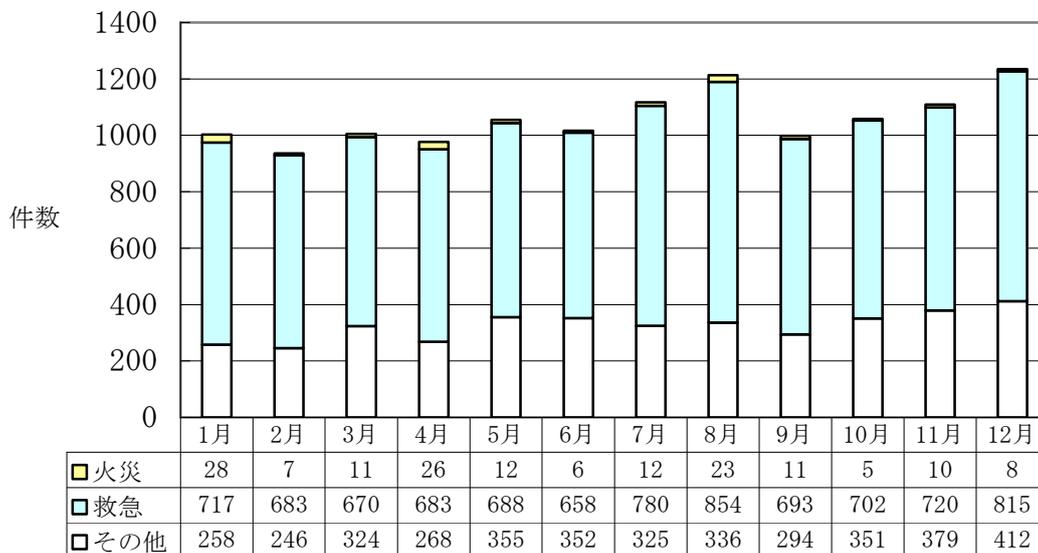
他の消防機関から転送を受信した件数					他の消防機関に転送した件数				
消防	火災	救急	その他	合計	消防	火災	救急	その他	合計
松江		9	1	10	松江	2	24	2	28
安来		3	1	4	安来	2	7	1	10
雲南					雲南				
東部		1	1	2	東部		2		2
中部		1	1	2	中部		1		1
新見		2		2	新見				
真庭					真庭				
津山					津山				
備北					備北				
合計	0	16	4	20	合計	4	34	3	41

別図Ⅳ－1 通報内容別着信状況



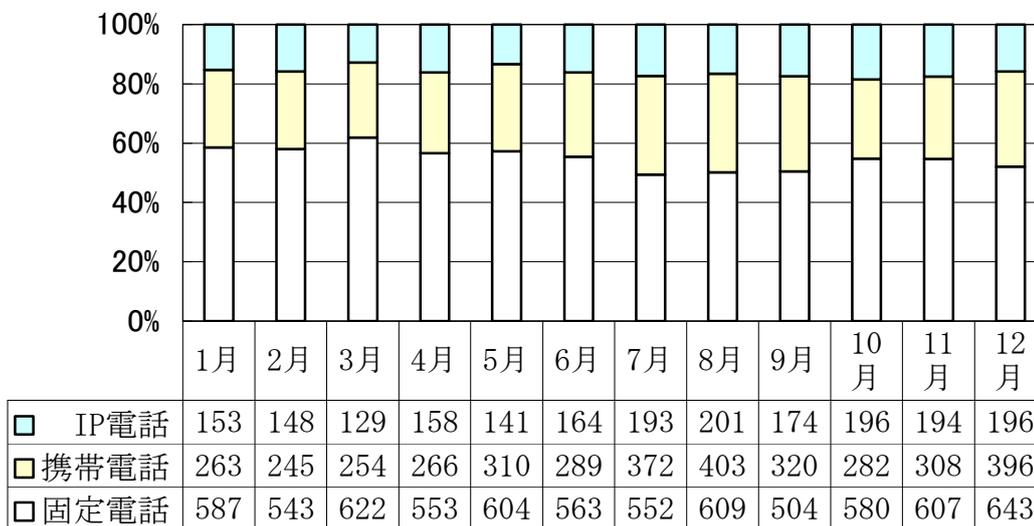
別図Ⅳ－ 2

月別着信状況



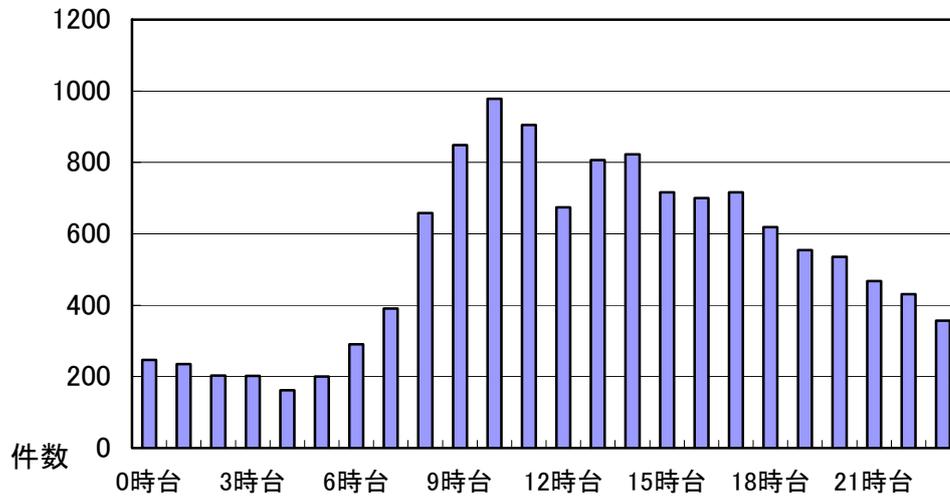
別図Ⅳ－ 3

電話種別毎の着信比率



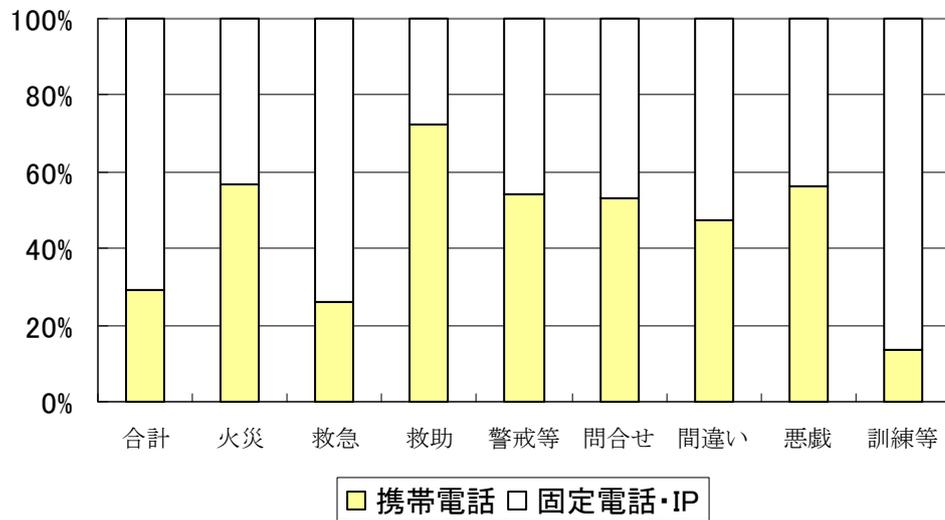
別図Ⅳ－４

時間帯別着信件数の推移



別図Ⅳ－５

電話種別による通報状況



消防団・水利 大火災記録



消 防 団

消防団の人員と装備

平成23年4月1日現在

人 員		人 員									消 防 車 輛 等			
		定員	実員	団長	副団長	分団長	副分団長	部長	班長	団員	消防ポンプ車	小型ポンプ積載力車	小型ポン動カプ	手引ポン動カプ
市町村別														
合 計		1,394	1,292	9	19	71	73	72	204	844	50	24	87	0
米 子 市		544	513	1	4	28	28	55	117	280	15	9	1	-
境 港 市		116	107	1	2	6	8	7	14	69	6	-	-	-
西 伯 郡	日 吉 津 村	35	24	1	2	-	-	-	3	18	2	-	-	-
	大 山 町	171	156	1	3	10	10	10	20	102	8	2	82	-
	南 部 町	148	141	1	2	7	7	-	14	110	5	3	1	-
	伯 耆 町	163	141	1	2	7	7	-	14	110	4	4	-	-
日 野 郡	日 南 町	103	103	1	1	7	7	-	7	80	5	3	-	-
	日 野 町	64	60	1	2	4	4	-	7	42	3	2	3	-
	江 府 町	50	47	1	1	2	2	-	8	33	2	1	-	-

管内水利状況

平成23年4月1日現在

区分 市町村別		水 利				
		基準数	現 有 数			
			公設消火栓 (150mm以上)	公設水槽 (40t以上)	そ の 他	計
合 計		4,233	1,436	834	2,985	5,255
米 子 市		1,749	1,061	162	600	1,823
境 港 市		465	292	56	45	393
西 伯 郡	日吉津村	72	54	0	21	75
	大山町	389	8	230	454	692
	南部町	216	0	145	247	392
	伯耆町	248	0	104	433	537
日 野 郡	日南町	508	0	57	761	818
	日野町	218	0	19	250	269
	江府町	368	21	61	174	256

大 火 災 記 録

1. 米 子 市(建物焼失面積1,000㎡以上)

・昭和30年4月8日(美保少年院火災)

午前11時30分、大篠津町美保少年院から出火し、9棟延2,577㎡を焼失した。

損害額約1,218万円、原因……煙草吸殻。

・昭和31年12月21日(田中木工所火災)

午後9時0分、富士見町二丁目155番地田中木工所から出火し、周囲の民家にも延焼して9棟延1,793㎡を焼失した。損害額約1,325万円、原因……こたつの過熱。

・昭和34年7月22日(石垣木工所火災)

午前4時25分、米原1,496番地石垣木工所から出火し、全焼7棟、半焼2棟延2,027㎡を焼失した。損害額約2,215万円、原因……不明。

・昭和37年12月11日(山一ベニヤ火災)

午前0時10分、角盤町四丁目30番地有限会社山一ベニヤ製作所から出火し、周囲の民家にも延焼して全焼7棟、半焼2棟延1,828㎡を焼失した。

損害額約2,192万円、原因……電気アイロンの過熱。

・昭和40年4月7日(義方小学校火災)

午前1時38分、立町四丁目義方小学校から出火し、延1,301㎡を焼失した。

損害額約1,973万円、原因……不明。

・昭和43年8月4日(米子木工株式会社火災)

午後1時43分、米原1,491番地米子木工株式会社から出火し、延1,470㎡を焼失した。

損害額約4,894万円、原因……熔断の火の粉が塗料かすに着火。

2. 境 港 市(建物焼失面積1,000㎡以上及び特殊火災)

・昭和10年1月12日(栄町大火)

午後7時55分、栄町三勇庵(置屋業)から出火し、全焼381戸の大火となった。

損害額約180万円、原因……灯明の火、以後1月12日を火災記念日とする。

・昭和10年11月24日(中町火災)

午前1時50分、中町墓地からの飛火により共有地から出火し、全焼11戸、半焼3戸の大火災となった。原因……不明。

・昭和18年12月30日(石橋造船火災)

午前8時頃、岬町石橋造船所から出火し、造船工場・事務所・製材所など6棟を焼失した。

損害額70万円、原因……焚火。

・昭和20年4月23日(玉栄丸爆発)

午前7時40分、陸軍徴用船玉栄丸積載の火薬が爆発し、全焼76戸、全壊355戸、被災面積1,426㎡に及び、消防団員5名が殉死した。

・昭和24年4月18日(京町火災)

午前10時30分、京町置屋業真木方から出火し、全焼5棟、半焼4棟、延1,426㎡を焼失した。

原因……不明。

・昭和35年2月2日(日の丸窯業火災)

午前6時4分、弥生町日の丸窯業から出火し、延1,266㎡を焼失した。

損害額約905万円、原因……乾燥機過熱。

・昭和38年4月10日(日の出館火災)

午後11時45分、日の出町映画館日の出館から出火し、延443㎡を全焼した。

損害額615万円、原因……不明。

・昭和39年2月24日(中浜小学校火災)

午後11時頃、小篠津町中浜小学校給食室から出火し、138㎡を焼失した。

損害額85万円、原因……取灰。

・昭和41年8月28日(第一水産火災)

午後4時5分、上道町水産加工場から出火し、延1,589㎡を焼失した。

損害額約1,599万円、原因……魚油の自然発火。

・昭和45年6月24日(石橋造船火災)

午前0時35分、岬町石橋造船所から出火し、延1,980㎡を焼失した。

損害額約1,292万円、原因……不明。

・昭和48年11月18日(丸神海産火災)

午後9時35分、栄町の水産加工場から出火し、延2,953㎡を焼失した。

損害額約8,015万円、原因……不明。

3. 広域消防発足後(建物焼失面積1,000㎡以上)

・昭和51年9月6日(朝日座火災)

午後2時6分、米子市朝日町65番地映画館朝日座から出火し、延1,302㎡を焼失した。

損害額約1,353万円、原因……不明。

・昭和58年6月4日(米子林産工業(株)火災)

午前1時頃、米子市錦町3丁目24番地米子林産工業(株)から出火し、延2,502㎡を焼失した。

損害額約4,780万円、原因……不明。

・平成3年4月4日(有景山商店火災)

午前4時9分頃、境港市中野町官有無番地有景山商店加工場より出火し、延1,168㎡を焼失した。損害額3,217万円、原因……不明。

・平成16年10月27日(山陰食鶏)

午前9時30分頃、西伯郡淀江町中間16山陰食鶏より出火し、延1,068㎡を消失した。

損害額5,978万円、原因……溶接機の火粉

・平成17年8月25日(阿部木工所)

午後7時20分頃、米子市富益町1268阿部木工所より出火し、延1,605㎡を消失した。

損害額5,805万円、原因……不明

・平成22年1月24日(三光株式会社昭和工場)

午後5時5分頃、境港市昭和町5-1三光株式会社昭和工場より出火し、延3,021㎡を消失した。損害額1,251万円、原因……不明

関 係 団 体



〔 米子市危険物保安協会 〕

平成22年度事業報告

1 調査研究の部

(1)危険物保安技術協会保安講習会(東京)

平成22年7月15日～16日

事務局 1名参加

(2)先進地視察研修

平成22年9月3日～4日

18名参加

株式会社モリタ 三田工場

大阪ガス ガス科学館

2 研修の部

(1)新規採用職員防災研修会

平成22年6月24日 西部消防局

101名参加

(2)鳥取県危険物取扱者保安講習(法定講習)

平成22年8月20日 米子市福祉保健センター

154名参加

平成22年8月23日

〃

123名参加

3 講習会の部

(1)第1回危険物取扱者試験準備講習会

乙種4類 平成22年5月18日～20日

50名参加

合格率 64.4% (県平均 33.5%)

丙種 平成22年5月18日

4名参加

合格率 75.0% (県平均 56.5%)

(2)第2回危険物取扱者試験準備講習会

乙種4類 平成22年10月6日～8日

57名参加

合格率 38.3% (県平均 27.6%)

(3)第3回危険物取扱者試験準備講習会

乙種4類 平成22年12月14日～16日

21名参加

合格率 47.1% (県平均 31.3%)

4 あっ旋事業の部

火災予防例規集、標識・掲示板等のあっ旋

5 広報活動の部

会報(第71号)作成配布

3月

6 防火協力の部

図書を各消防署所に寄贈(新・火災調査教本第2巻・第6巻)

7 会議の部

(1)定期総会、役員会

平成22年5月21日 西部消防局

(2)鳥取県危険物保安協会連合会理事会

平成22年6月9日 米子ワシントンホテルプラザ

(3)新年役員会

平成23年1月25日 皆生グランドホテル天水

8 その他

(1)全国危険物安全大会及び表彰式

平成22年6月7日 東京

(2)鳥取県危険物保安協会連合会並びに鳥取県知事表彰

平成22年6月9日 米子ワシントンホテルプラザ

〔米子自衛防火協会〕

平成22年度事業報告

1 調査研究の部

先進地視察研修

平成22年9月3日～4日

18名参加

株式会社モリタ 三田工場 及び 大阪ガス ガス科学館

2 研修の部

新規採用職員防災研修会

平成22年6月24日 西部消防局

101名参加

3 会報発刊の部

(1)会報(第59号)作成配布

7月

(2)会報(第60号)作成配布

2月

4 防火思想普及の部

(1)防災DVD購入

「あさりちゃんの火の用心」(こども向け・アニメーション)

「いのちを守る 病院火災の初期対応」(事業所向け)

(2)防火ビデオ・フィルムの貸し出し

5 防火協力の部

図書を各消防署所に寄贈(新・火災調査教本第2巻・第6巻)

6 会議の部

(1)正副会長会議

平成22年5月19日

ホテルハーベストイン米子

(2)定期総会、役員会

平成22年6月4日

西部消防局

(3)新年役員会

平成23年1月25日

皆生グランドホテル天水

7 その他

(1)甲種防火管理新規講習会及び再講習の図書斡旋

(2)自衛消防業務追加講習の図書斡旋

平成22年度 事業報告

1. 会報の発行

3月1日 会報第52号発行

2. 消火訓練会の開催

事業所、自治会を対象に消火訓練会を開催

3. 防火ビデオの貸し出し

事業所、保育園等に防火ビデオの貸し出し

4. 住宅用火災警報器設置促進の協力

5. 消火競技会の開催

10月14日 第31回事業所対抗消火競技会を開催 12チーム・24名参加

優勝 アクティ境港営業所 B チーム

第2位 アクティ境港営業所 A チーム

第3位 東西オイルターミナル境港営業所 A チーム

特別賞 済生会地域ケアセンターはまかぜ

6. 講習会の開催

危険物取扱者試験準備講習会の開催

5月、10月の年2回

7. 会議関係

(1) 境港市消防保安協会関係

5月13日 役員会議

6月 3日 第51回 総会

(2) 鳥取県危険物保安協会連合会関係

5月 7日 事務局長会議(鳥取市)

6月 9日 理事会(米子市)

8. 表彰関係

6月 3日 定例表彰 個人1、事業所2

9. その他

(1) 6月20日 境港市消防団ポンプ操法大会に協力(優勝第四分団)

(2) 6月、11月、1月の危険物取扱者試験実施案内

(3) 8月20日、23日の危険物取扱者保安講習開催案内

(4) 境港市保安協会ホームページの開設

平成22年版 消防年報

平成23年9月 発行

編集・発行 鳥取県西部広域行政管理組合消防局

〒683-0853鳥取県米子市両三柳5452番地

TEL (0 8 5 9) 3 5 - 1 9 5 1

FAX (0 8 5 9) 3 5 - 1 9 6 1
